

とやまのお城

とやま文化財百選シリーズ (5)

とやまのお城

富山県教育委員会

富山県教育委員会



はじめに

県教育委員会では平成16年度から『とやま文化財百選』事業を行っています。

これは身近な文化財を対象に、郷土の誇りとして後世に受け継いでいきたいものを選定して、県民の皆さんが、ふるさとの文化財の価値を再認識し、地域ぐるみで保存・活用していくきっかけにさせていただくことを目的とした取り組みです。

これまで、「土蔵」、「獅子舞」、「祭り」、「年中行事」をテーマにとりあげました。今年度は第5弾として、地域の歴史的シンボルとも言える「お城」をテーマに、「とやまのお城」百選として選定を行いました。

このガイドブックは、とやまのお城の特徴や見どころなどとともに、選定されたお城について紹介したものです。

これらのお城は、今日まで県内各地の野辺や山中にひっそりと、その風景に溶け込んで残ってきたもので、私たちに、とやまの戦国時代のありさまをいきいきと語りかけてくれる大切な宝物です。本書で郷土の歴史や文化について、一層の理解と愛着を深めていただくとともに、ぜひ、現地を訪れ、戦国の群雄が割拠した歴史ロマンを肌で感じてみてください。

目次

1	お城の歴史	1
2	とやまのお城の種類	2
3	とやまのお城の特徴	3
4	お城の見方	4
5	越中戦国時代に活躍する主な武将	6
6	主な越中の戦国時代の合戦	6
7	とやまの戦国時代年表	8
8	「とやまのお城」百選	10
	『とやまのお城』百選一覧	86
	『とやまのお城』百選マップ	90

『とやまのお城』百選は、主な特徴から以下のマークで分類してあります。



居館



山城



平城



1 お城の歴史

お城は敵や獣の侵入を防ぐために築いた防衛施設で、城は日本だけではなく、世界各地で見られます。城がいつ頃から造り始められたかは明らかではありませんが、人類の発生と同時に現れたともいわれています。

日本での城の出現は弥生時代と考えられています。お城が爆発的に出現するのは武士の時代である中世です。武士は堀と土塁を周囲に巡らせた館を築きました。南北朝時代の動乱期には地方豪族の本拠地として急峻な山頂に堀や柵を設置した山城が各地に築かれました。山城は戦国時代にかけてさらに発達し、全国では約3万箇所にもものぼるとされています。織田信長は1576（天正4）年、それまでの山城とは異なる、石垣や天守が設けられた安土城（滋賀県）を築きました。以降この形式が主流となり江戸時代に受け継がれます。

〔富山のお城〕

県内には約400箇所確認されています。最も古いお城として知られているのは放生津城（射水市）で、『太平記』には元弘3

（1333）年の落城の様子が記されています。その後、南北朝時代と戦国時代には非常に多くの城が築かれていました。越中は、鎌倉時代には北条氏、室町時代に畠山氏が守護を務めていますが、ほとんど鎌倉や京都に住んでいました。このため、代理として越中の在地領主によって統治されて、一国を治める程の強力な武将が出現しませんでした。そのため、上杉謙信や武田信玄、織田信長が越中に進攻しました。その結果、在地領主や隣国の戦国武将、有力寺院などが、城を築きました。戦国時代末の天正11（1583）年には佐々成政が越中を治め、富山城を居城としました。その後、豊臣秀吉と敵対したため、天正14（1585）年には秀吉によって富山城の成政が攻められ、降伏しました。以降、越中は前田氏の領地となりました。慶長10（1605）年には、前田利長が隠居し、富山城に移りました。その後、慶長14（1609）年には、富山城が火災により焼失したため、高岡城を築いて入城しました。寛永16（1639）年には富山藩が設けられ、富山城が藩主前田氏の居城となりました。



高岡城



富山城

2 とやまのお城の種類

お城は築かれた場所や用途からいくつかの種類に分けられます。

(1) 居館

平地にあり、武士の屋敷など主に居住施設を中心としているもの。方形の敷地に土塁と堀を巡らしたものが多い。主なお城としては郷柿沢館（上市町）や寺家新屋敷館（南砺市）があります。



寺家新屋敷館(南砺市)

(2) 山城

丘陵上などの険しい場所に築かれ、地形を利用した戦闘のための軍事施設であるもの。山を削ったり、土を盛ったりして防御機能を充実させている。主なものとしては増山城（砺波市）、宮崎城（朝日町）、松倉城（魚津市）、守山城（高岡市）があります。



増山城(砺波市)

(3) 平城

平地にあり、軍事施設と居住施設を併せ持ったお城。代表的なお城として富山城（富山市）、高岡城（高岡市）、木舟城（高岡市）があります。



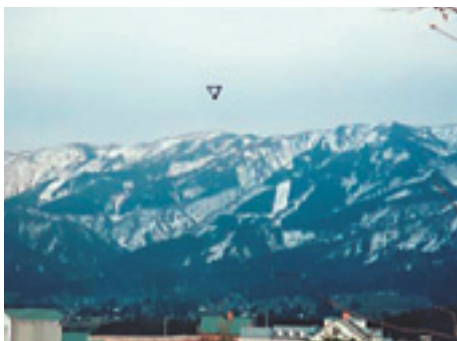
安田城(富山市)

3 とやまのお城の特徴

富山県には約400箇所のお城があり、特徴を挙げてみると次のようになります。

(1) 山城が大多数を占めること

富山県で確認されている城の内3分の2が丘陵や台地に立地しています。東、南、西の三方を山に囲まれる富山県の地形的な要因と考えられます。現在のところ県内の最高所に築かれたお城は標高約1,100mの杉山砦（南砺市）です。ほとんどは標高300m付近の里山や台地上に築かれています。



杉山砦(高岡徹氏提供、南砺市)

(2) 加賀・能登との国境地帯に比較的多く分布すること

富山県のお城の分布状況を見てみると加賀、能登との国境地帯である氷見市、高岡市、小矢部市の地域に多く分布しています。この地域は南北朝時代から能登、加賀の勢力と戦いを繰り返した地域で、戦国時代末に佐々成政が越中を平定した後に、前田氏との戦いのため国境警備の城が整備されました。



阿尾城(氷見市)

(3) 寺院でありながらお城の性格を持つものがあること

佐々成政が越中を統一するまでは砺波地域などに本願寺を背景とする寺院勢力が力を有していました。その代表的な存在は瑞泉寺と勝興寺で、とりわけ戦国時代には堀や土塁が設けられ寺院の城郭化が進みました。



土山御坊(南砺市)

4 お城の見方

水濠で囲まれ石垣の上にそびえる瓦葺き白壁の天守閣は江戸時代に入ってからのもので。これより以前は、山を削ったり、土を盛り上げたり、尾根を切り込んだり、そして板塀や柵を立てるなどして敵の侵入を防ぐための比較的簡単なものでした。そのため、お城の多くは、ちょっと見ただけでは普通の山としか見えません。お城をもっと楽しむために城の造りとその名称を覚えてください。近くにあるお城を探検する際に役立つと思います。

(1) 曲輪 (くるわ)

斜面を削って平らにした平坦面です。その中心となるところを主郭(しゅかく)といいます。兵士が駐屯する建物や食糧、武器などを保管する倉庫などが設置されていたと考えられます。



曲輪と土塁(氷見市 飯久保城)

(2) 櫓台 (やぐらだい)

主郭などの一角に一段と高く作られた物見台です。

(3) 虎口 (こぐち)

城への出入り口です。



主郭と虎口(氷見市 小浦城)

(4) 切岸 (きりぎし)

曲輪などを作る際にできた人工的な急斜面で、できるだけ垂直に近くすることで、敵を寄りつかせなくすることができます。



切岸(富山市 白鳥城)

(5) 土橋 (どばし)

曲輪と曲輪を結ぶ橋です。平城では、堀に水が入ると敵には見えなくなるものもあります。

(6) 堀 (ほり)

曲輪を敵の攻撃から防ぐため、その周りに掘られた溝です。山城では空堀が多く、平城では水を入れた水堀があります。



堀(富山市 中地山城)

(8) 土塁 (どるい)

曲輪の周りに土を盛り上げた堤防で、敵の攻撃や進入を防ぎます。



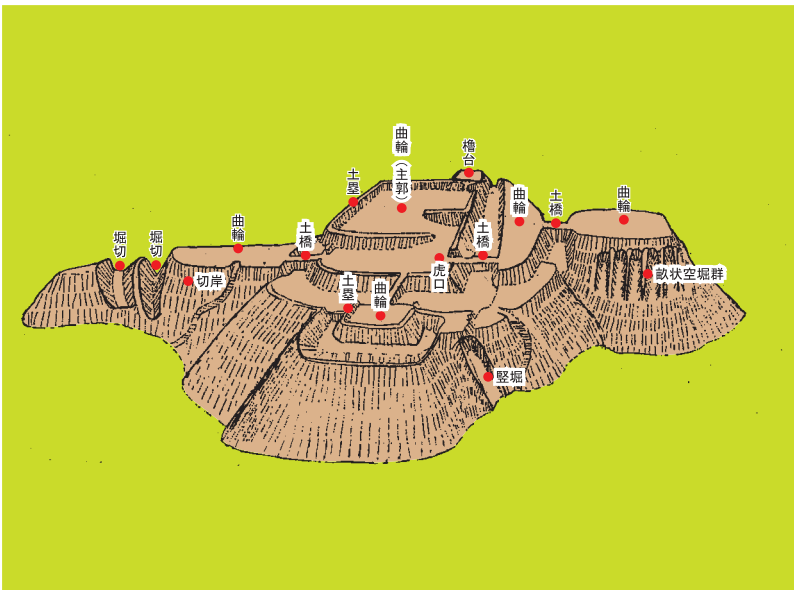
土塁(黒部市 若栗城)

(7) 豎堀 (たてほり)

斜面をもっと急にするために掘った溝。防御だけではなく、一列に上る敵を攻撃する際に有利であったと考えられます。

(9) 畝状空堀群 (うねじょうからほりぐん)

豎堀が連続しているもので、敵の斜面の動きを封じたものと考えられています。



お城の見方

5 越中戦国時代に活躍する主な武将

神保氏

守護畠山氏の家臣。射水・婦負の守護代の家柄。

慶宗（よしむね：？～1520）

放生津城、守山城が本拠、長尾為景と何度も戦う。1520年新庄城で敗戦し、自害。

長職（ながもと：？～？）

慶宗の子。富山城、増山城が本拠、衰退した家を再興。椎名氏や謙信と戦う。のち、謙信と手を組むが家中は分裂。

長住（ながすみ：？～？）

長職の子。流浪後、京都で信長に仕え、謙信没後、信長の命で越中に入る。越中平定を図るがうまくいかず、佐々成政入国後、国外追放される。

氏張（うじはる？～1592）

神保氏の庶流。守山城を本拠。始めは謙信に属するが、謙信没後、佐々の重臣として活躍。佐々に従い出国、その後は徳川家康に仕える。

畠山氏

室町幕府三管領（かんれい）家の一つを務めた名門。管領家は越中の守護を務める。能登の守護は分家。

前田氏

利家（としいえ：1538～99）、織田氏の家臣。81年に能登、83年に加賀を領有。金沢城を本拠に84年以降佐々と加越国境で戦う。85年佐々が降伏後、嫡男利長が越中国を領有。

石黒氏

古代豪族利波臣氏を祖とする。福光城の城主。一向一揆に敗れ衰退。

佐々成政（1536～88）

織田氏の家臣として柴田勝家らと北陸各地を転戦。1583年に越中平定。その後豊臣と対立したため前田氏と戦うが、85年に降伏。87年に九州肥後へ転封。

椎名氏

新川郡守護代。松倉城が本拠、1521年以降長尾氏の配下として活躍。43～44年神保長職と戦う。68年謙信と戦い松倉城を追われ、小矢部の蓮沼城で滅亡。

上杉（長尾）氏

長尾家は越後の守護上杉家家臣で守護代の家柄。能景（よしかげ）は1506年、一向一揆討伐中、砺波で戦死。為景（ためかげ）は、越中へ侵攻し20年に越中を平定。その後佐々に敗退。

6 主な越中の戦国時代の合戦

（1）一向一揆と戦国時代

15世紀の半ごろ以降一向宗徒と農民たちは越前の吉崎御坊を足がかりに北陸で急速に発展しました。「進めば往生極楽、退けば無間地獄」の信念の下、約100年間にわたり各地で権力者と対峙しました。越中では井波町瑞泉寺や、福光町土山御坊などが拠点となりました。

① 田屋川原の戦い（南砺市田屋）

文明13（1481）年、主要地：瑞泉寺・福光城、瑞泉寺・近在の百姓対石黒光義

(福光城主)・天台宗(惣海寺)

②芹谷野の戦い(砺波市栴檀野)

永正3(1506)年、越中・加賀の一向一揆対越後守護代長尾能景・越中守護代神保慶宗

③守山城の戦い(高岡市東海老坂)

永正16(1519)年、主要地:守山城、越後守護代長尾為景対越中守護代神保慶宗

(2) 上杉謙信と武田信玄

守護代出身の信玄と下克上の風潮の中で台頭してきた謙信は、戦国時代を代表する巨星です。天文12(1543)年から永禄7(1564)年まで5回にわたる川中島の合戦は余りにも有名です。

天正元(1573)年に信玄が死去するまで越中の国人達が両雄の傘下に入り血みどろの戦いが行われました。

①松倉城の戦い(魚津市鹿熊)

永禄12(1569)年、主要地:松倉城、上杉謙信対椎名康胤

②日宮城の戦い(射水市日宮)

元龜3(1572)年、主要地:日宮城、加賀・越中連合一向一揆对上杉に属する神保長職旧臣(小島職鎮・神保覚広)

③増山城の戦い(砺波市増山)

天正4(1576)年、主要地:増山城、上杉謙信対神保方

(3) 織田信長と一向一揆

天正3(1575)年、長篠合戦で武田氏に勝利した信長は越中国入神保長住を送り込むなど、佐々成政とともに一向一揆の一掃にあたらせた。砺波の一向一揆勢の抵抗に苦戦するものの、天正10(1582)年、上杉の拠点魚津城の落城を契機に一向一揆勢も急速に衰えていく。

①小出城の戦い(富山市小出)

天正9(1581)年、主要地:小出城、佐々成政・神保長住対上杉景勝(河田長親・長尾喜平次)

②井波城の戦い(南砺市井波・松島)

天正9(1581)年、主要地:井波城・瑞泉寺、佐々成政・神保長住対瑞泉寺(七代・顕秀)

③魚津城の戦い(魚津市本町)

天正10(1582)年、主要地:魚津城・天神山城・松倉城、織田信長(柴田勝家・佐々成政・前田利家・佐久間盛政)

(4) 豊臣秀吉と佐々成政

天正10(1582)年、本能寺の変で信長が倒れてから、新たに覇権をめぐる戦いが繰り返される。織田再興を唱えた成政は、利家を従えた秀吉と対峙することになる。天正13(1585)年、秀吉軍は呉羽山の白鳥城に陣を敷き、富山城の成政を降伏させた。この戦いで越中の戦国時代は幕を閉じる。

①末森城の戦い(石川県押水町)

天正12(1584)年、主要地:末森城・朝日山城、前田利家(奥村永福)対佐々成政

②阿尾城の戦い(氷見市阿尾)

天正13(1585)年、主要地:阿尾城・守山城、菊池武勝(前田利家)対神保氏張(佐々成政)

③富山の戦い(富山市本丸・城山)

天正13(1585)年、主要地:富山城・白鳥城・安田城・大峪城、豊臣秀吉対佐々成政

7 越中のお城年表

西暦	元号	越中の動き
1336	建武6	南北朝の対立が始まり、山城が造られはじめる。
1467	応仁元	応仁の乱が始まる。越中の国人の対立も激化
1481	文明13	福光城主石黒光義らが、瑞泉寺の一向一揆と田屋川原で戦い、敗北する。
1493	明応2	前將軍足利義材が守護代神保長誠を頼り下向
1506	永正3	越中の一向一揆が活発化する。越後守護代長尾能景が芹谷野で一向一揆に破れ討死する。
1516	永正13	神保・椎名氏が越後守護代長尾為景を破る。
1520	永正17	越後守護代長尾為景が新川郡に進攻し、新庄城で神保慶宗・遊佐・椎名・土肥らを討つ。
1543	天文3	このころ、神保長職が富山城を築く
1544	天文4	神保・椎名両氏が和睦し、神保氏の支配地域が常願寺川左岸以西となる。
1560	永禄3	越後の上杉謙信が越中に進攻し、富山城の神保長職が増山城に退く。
1563	永禄6	この頃、飛騨の江馬輝盛が中地山城を築城して上杉方と結ぶ。
1568	永禄11	上杉謙信が越中に進攻。椎名康胤が武田信玄と提携して勝興寺に味方する。神保氏被官寺島職定が武田方と結び中知山城へ強く働きかける。
1569	永禄12	上杉方が椎名氏討伐のため、松倉城を包囲
1571	元亀2	上杉謙信が富山城を攻略する。上杉方にいた飛騨の三木良頼の家臣塩屋秋貞が猿倉城を築く。
1572	元亀3	上杉方の神保氏が拠った日宮城が一向一揆勢により落城。謙信が一向一揆衆のこもる富崎城を焼く。
1573	天正元	上杉謙信が一向宗のこもる富山城を攻め、神通川以東を制圧し、一向一揆勢を一掃する。

西暦	元号	越中の動き
1576	天正4	上杉謙信が増山城・森寺城など落城させ、越中を制圧
1578	天正6	上杉謙信死去により、織田信長は神保長住に飛騨経由で越中への入国を命じる。信長方の斎藤新五と上杉方の河田長親が月岡野で戦う
1580	天正8	織田信長が佐々成政を派遣し、神保氏を援助
1581	天正9	信長が成政に越中支配を命じる。成政、神保長住らが砺波一向一揆勢を攻撃し、瑞泉寺顕秀が上杉景勝の援助を求める。 瑞泉寺、安養寺が織田方の攻撃により陥落
1582	天正10	信長が富山城の神保長住を越中より追放。成政が上杉方の魚津城、松倉城を攻撃 本能寺の変により織田信長死去。その後、弓庄城の土肥氏、城生城斎藤氏が上杉景勝と結ぶ
1583	天正11	佐々成政が弓庄城、魚津城を攻め、越中を平定
1584	天正12	佐々成政が能登末森城を攻め、前田利家に敗北 ザラ峠越えて徳川家康に救援を求める。
1585	天正13	豊臣秀吉が富山城の成政を下し、前田利長に婦負、射水、砺波郡を与える。利長は守山城に入城 大地震で木舟城が倒壊
1587	天正15	豊臣秀吉により、佐々成政が肥前に転封。新川郡は前田利長の預地となる。
1597	慶長2	前田利長が守山城から富山城へ移る。
1609	慶長14	富山城が焼失したため、利長は一時魚津城に居住し、その後高岡城を築く。
1615	元和元	徳川幕府が大名の居住地以外の城郭の破棄を命じる（一国一城令）
1639	寛永16	富山藩初代藩主前田利次が富山に入城する。

8 『とやまのお城』 百選



みやざき

宮崎城 (荒山城、泊城)

県史跡

所在地 朝日町宮崎

立地 丘陵頂部、標高249m

遺構 曲輪、土塁、堀、土橋、石垣

規模 700m×340m

城主 宮崎太郎

時期 平安～戦国

概要 越後との国境に近い宮崎の城山にある。

築城は寿永元年（1182）、源義仲が北陸の宮の御所をこの地に築いた。この城は在地武士宮崎太郎の居館であったと伝える。室町・戦国期になると椎名氏の出城となったが、永禄12年（1569）椎名氏が、上杉謙信のため松倉城を追われると上杉氏の部将が配置された。この時期に越中攻めの拠点として役割を持ち三つの曲輪からなる城の構えができたようである。その後佐々氏により支配されたり、上杉勢に奪回されるなどの争奪を繰り返した。佐々氏の転封後は前田氏の部将が配置されたが、やがて廃城となった。城の西南には笹川の谷を挟み横尾城がある。



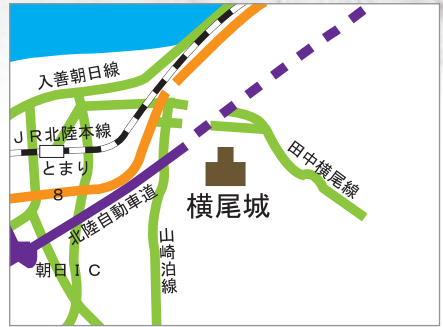
石垣





よこお 横尾城

所在地 朝日町横尾
立地 丘陵頂部、標高241m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋、櫓台、虎口
規模 280m×250m
時期 戦国
概要 丘陵頂部に位置し、北側尾根を下ると扇山砦、上百山砦が、また北東約1.3kmには宮崎城がある。南北に続く尾根に空堀を設け、主郭は方形を意識して土塁、空堀を設けているが曲輪内に自然地形が多く残る。北西側には長い塹堀をもつ。宮崎城を意識して作られ、臨時的に使用された城と考えられる。



主郭



もとやしき 元屋敷城

所在地 朝日町元屋敷
立地 丘陵先端、標高161m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台
規模 200m×130m
時期 戦国
概要 宮崎城の北西側、一段低く海岸に張り出した丘陵先端に位置し、眼下には海岸線に沿ってを旧北陸道が通る。宮崎・横尾両城周辺には城郭に関係すると見られる地名が数多く存在しており「元屋敷」もその一つである。遺構は二つの曲輪からなり、巡るように土塁を設ける。北側には虎口がありカギの手状に折れ曲がり外柵形状に見える。南側へ行く尾根上には堀切を設ける。





ふなみ
舟見城 (狐平城)
きつねひら

所在地 入善町舟見
立地 台地、標高253m
遺構 曲輪、堀
規模 350m×130m
城主 飛騨守五郎左近丞
時期 南北朝～戦国
概要 黒部川右岸の段丘上に位置する。弘治年間（1555～58）に飛騨守五郎左近丞が居住していたが上杉氏によって落城。平成2年の試掘調査では、柱穴、堀などが確認された。舟見城の時期については、従来は戦国期とされていたが、出土遺物から南北朝～室町期にさかのぼる可能性もある。



わかぐり
若栗城 (館の城)

市史跡

所在地 黒部市若栗
立地 平地、標高67m
遺構 曲輪、土塁、堀、土塁基礎石列
出土遺物 珠洲、越前、越中瀬戸、伊万里、砥石
規模 100m×100m
城主 不悪礼斎右京輔、総田太郎左衛門
時期 戦国
概要 地方鉄道舌山駅の北方約600mに位置し、現在は東側を除く三方を囲んだコの字形の平面を持つ土塁が残る。ほ場整備事業により北側と南側の土塁が削られ土塁の外側に存在した堀も埋められた。昭和49年の発掘調査では、建物の基礎と考えられる石敷きや土塁の基礎石列が確認され珠洲、越前などが出土した。不悪礼斎右京輔が城主とされている。



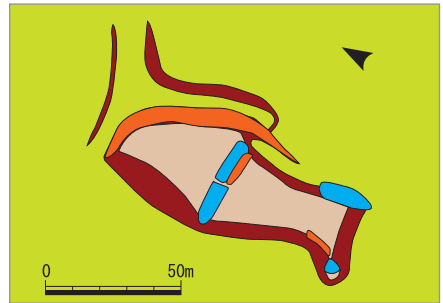


あけびやま

明日山城 (鼓打城)

つづみうち

所在地 黒部市宇奈月町明日
立地 丘陵頂部 標高355m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋
規模 100m×80m
時期 戦国
概要 黒部川右岸の山上に築かれ、城のある所は「松ガ平」と呼ばれ広い平坦面が続く。川に面した西から南にかけては急崖で天然の要害である。城内は南北二つの曲輪からなり、この曲輪の間は空堀によって隔てられるが、中央にある土橋により結ばれる。また城跡付近を「鼓ノ平」と呼んでいる。



縄張模式図



堀切



びょう だけ

鉦ヶ岳城

所在地 黒部市嘉例沢、宇奈月町内山
立地 丘陵頂部、標高861m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋
規模 130m×30m
城主 不明
時期 戦国
概要 鉦ヶ岳の山頂に位置する。東西側は急斜面となり、南北の細長い尾根の北側に2条、南側に1条の堀切がある以外、顕著な遺構は残っていない。



まつくら
松倉城 (鹿熊城)
かくま

県史跡

- 所在地** 魚津市鹿熊字城山
立地 丘陵頂部、標高415m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋、井戸、虎口、石積
規模 1000m×500m
城主 井上俊清、椎名氏、桃井氏、上杉氏
時期 南北朝～戦国末
概要 県内三大山城の一つ。角川に面した丘陵上に位置する。暦応元年（1338）に越中の守護井上俊清が、戦に敗れ松倉城へ籠ったことが初見である。この後、桃井氏、椎名氏、上杉氏などの持城となる。戦国期には魚津城の詰城として、周辺に水尾城、升方城、北山城、坪野城、天神山城など多くの支城や砦を設けたが、慶長初期に廃城となった。



(魚津市教育委員会提供)



(魚津市教育委員会提供)

城の西側には、大見城平と呼ばれる平坦地が広がり、登り口には門跡とされる石積がある。城は南西から北東に向けて尾根上に郭を連ね、その間を空堀で遮断、本丸から大見城平方向にも段差を伴う曲輪を配している。

また、応永年間に発見された金山の存在が知られており、最盛期は慶長年間である。平成4年に本丸と二の丸の空堀を発掘調査、空堀は約5.5mの深さがあったことが判明。平成7年の大見城平の発掘調査では、火災の跡とされる炭化材や中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、染付、越前、越中瀬戸が出土した。



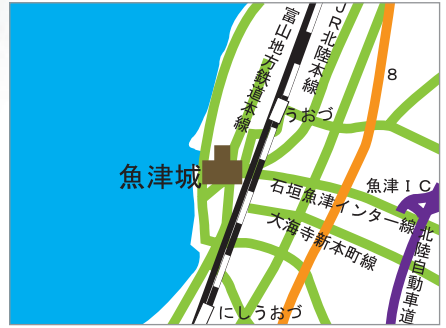


9

うおづ
魚津城 (小津城)

市史跡

- 所在地** 魚津市本町
立地 平地、標高3m
規模 230m×200m
城主 椎名氏、上杉氏部将、佐々氏
時期 室町、戦国
概要 松倉城を本拠とした新川郡守護代椎名



氏が築城。永禄12年（1569）に上杉方は松倉城を攻めた際、魚津城も落城。その後魚津城は松倉城とともに、上杉方の越中の拠点となる。天正10年（1582）織田方が魚津城を攻撃し同年6月落城。その後は佐々氏、前田氏の家臣が在城、元和元年（1615）一国一城令により廃城。天明5年（1785）の魚津町惣絵図には町の中央に城跡が描かれ本丸には「古城御蔵屋敷」とみえ廃城後は加賀藩の御蔵として利用されていた。現在は魚津市立大町小学校がある。



(魚津市教育委員会提供)



上杉謙信の歌碑



ますがた
升方城

市史跡



所在地 魚津市升方字城山
立地 丘陵頂部、標高240m
遺構 曲輪、土塁、堀、井戸、櫓台、虎口、石垣

規模 370m×200m
城主 椎名氏、佐々氏、前田氏
時期 戦国～近世初頭

概要 早月川右岸の山頂に位置し、角川を挟んで松倉城と対峙する。松倉城西側の支城群の一つである。主郭は丘陵頂部、主郭を取り巻くように帯状の曲輪を配置。また周囲の斜面には、畝状空堀が特徴的に配置される。曲輪内には、土塁、井戸、石積みが残る。戦国期に椎名氏により築城。

魚津城落城後、佐々氏・前田氏の家臣が居城し、慶長年間に廃城。



(魚津市教育委員会提供)



(魚津市教育委員会提供)



てんじんやま
天神山城

市史跡

- 所在地** 魚津市小川字天神山
立地 丘陵頂部、標高163m
遺構 曲輪、土塁、堀、井戸
規模 350m×250m
城主 上杉氏
時期 戦国
概要 松倉城を本城とする椎名氏の支城、上杉謙信による松倉城攻略（永禄12年）後は、上杉方の支城。山頂部には土塁・櫓台を備えた主郭、中腹部には帯郭や腰郭が多数認められる。南側中腹部の腰郭群は大規模なものであり、実質的な居住空間とみなせる。北側斜面にも豎堀を備えるなど上杉景勝が着陣した山城にふさわしい縄張を残している。



(魚津市教育委員会提供)



(魚津市教育委員会提供)



(魚津市教育委員会提供)



きたやま
北山城 (金山谷城)

かなやまだに

市史跡

- 所在地** 魚津市北山
立地 丘陵頂部、標高310m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋、櫓台、虎口
規模 300m×120m
城主 椎名氏、上杉氏
時期 戦国
概要 角川の支流富川に面した丘陵部にある。

南北に長く南東側の平坦地で最高所が主郭と考えられ、またこの西側に数段の曲輪が続く。帯曲輪が東から南西にかけて廻り数箇所に堅堀を設け、曲輪を遮断している。城主は椎名家の持城。



主郭



みずお
水尾城 (水尾山城)

市史跡

- 所在地** 魚津市鹿熊
立地 丘陵頂部、標高303m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口
規模 320m×120m
城主 井上俊清、水尾兵衛
時期 南北朝、戦国
概要 早月川と角川に挟まれた丘陵上に位置し、角川を挟んだ対岸には松倉城がある。また北西側には升方城や石の門砦が、北東側では松倉集落を見下ろす。水尾兵衛が居城。山頂部分を削平して5か所の空堀で区切られた曲輪を設ける。小規模な土止めの石垣を設ける曲輪もみられる。能登の守護吉見頼隆が越中を攻めた際、落城。



(魚津市教育委員会提供)



いしもん 石の門砦

市史跡



所在地 魚津市鹿熊字石ノ門
立地 丘陵頂部、標高185m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋、虎口、道路、石垣

規模 220m×70m
城主 椎名氏、上杉氏部将、佐々氏
時期 戦国

概要 早月川と角川に挟まれた丘陵上、升方城と水尾城との中間の鞍部に「石の門」と呼ばれる石垣（石組遺構）がある。直径80cm前後の川原石を高さ3～4m組み上げ幅3m程の通路を挟んで向かい合う。『魚津市史』によると、この尾根上の南約300mに「土の門」があったという。





15

こすがぬまぶけやしき
小菅沼武家屋敷 (武隈屋敷跡)

市史跡

- 所在地** 魚津市小菅沼
立地 丘陵頂部、標高242m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、石垣
規模 120m×100m
時期 戦国
概要 松倉城城主椎名氏の家老であったとされ、椎名氏が滅んだあと在地に住み着いた武隈氏の屋敷地で、昭和30年代まで生活の場となっていた。



石垣(魚津市教育委員会提供)



(魚津市教育委員会提供)



16

つばの
坪野城 (坪野山城)

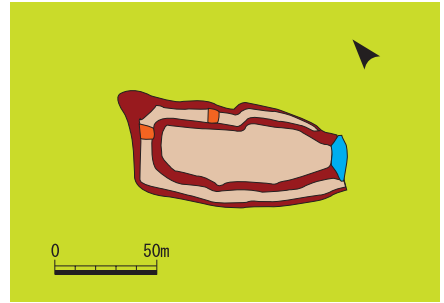
市史跡

- 所在地** 魚津市坪野
立地 丘陵先端、標高466m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 100m×70m
城主 椎名氏
時期 戦国
概要 片貝川左岸の丘陵頂部に位置する。山頂は北・南・西の方向に尾根が伸び、この狭い尾根に堀を設けて曲輪としている。椎名氏の持城。

17

あかさか
赤坂砦

所在地 魚津市大熊
立地 丘陵先端、標高337m
現状 山林
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 110m×50m
時期 戦国
概要 松倉城郭群で最も南にある砦で、丘陵先端部にある。主郭は平坦でその周りに帯曲輪を設ける。



縄張模式図



堀と土塁

18

かみうめさわ
上梅沢館 (上梅沢砦)

所在地 滑川市上梅沢
立地 平地、標高19m
遺構 曲輪、土塁
規模 70m×50m
時期 戦国
概要 浄土宗光明寺付近が館跡とされ、現在境内の東西に土塁の一部が残る。地籍図から東・南・北側には堀と思われる地割りが確認できる。寺の北側で試掘調査が行れたが、館に関する遺構・遺物は確認されなかった。

所在地 滑川市蓑輪、上市町護摩堂
立地 丘陵頂部、標高488.3m
遺構 曲輪、土塁、堀、井戸、馬場
規模 530m×400m
城主 蓑輪五郎左衛門
時期 室町、戦国
概要 市・町の境をなす城山山頂部に位置する。城主に蓑輪五郎左衛門。南から北西に向けて伸びる尾根上に郭群が階段状に設けられる。城中心部に郭を集中させ、郭群の両端を堀切で遮断する。



なお、字名を取り滑川市では箕輪城、上市町では護摩堂城と呼んでいる。



(滑川市教育委員会提供)



(滑川市教育委員会提供)



ゆみのしょう

弓庄城 (弓之庄館)

町史跡

- 所在地** 上市町館西円場
- 立地** 台地、標高55m
- 遺構** 曲輪、土塁、堀、土橋、井戸、建物
- 規模** 600m×150m
- 城主** 土肥氏
- 時期** 戦国（16世紀代）
- 概要** 白岩川中流右岸、河岸段丘上に位置する。土肥氏は、堀江庄の地頭代として堀江に居館を構えた。16世紀初め、白岩川流域に進出して弓庄城を築城。永正17年（1520）長尾為景に敗れ、堀江系土肥氏は衰退するが、後に弓庄系土肥氏は上杉氏に属し、新川郡西部の有力国人となった。



天正6年（1578）上杉氏没後、織田方に属したが、同10年（1582）信長が本能寺で討たれると再び上杉氏に属し、佐々成政と敵対した。佐々氏は二度にわたり弓庄城を攻め、同11年に土肥氏は佐々氏と和睦し、越後へ退去した。この弓庄城攻めの際の付城が、郷田砦と日中砦である。

本城周辺の発掘調査では、堀、建物、井戸、道路、石積・土塁痕跡といった遺構が検出した。城の前に歴史文化館があり出土品等が展示されている。





21

ごうかきざわ

郷柿沢館 (郷柿沢壘)

町史跡

- 所在地** 上市町郷柿沢
立地 平地、標高27m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋、虎口
規模 90m×90m
城主 土肥氏
時期 戦国
概要 上市川右岸の西養寺境内が館跡である。

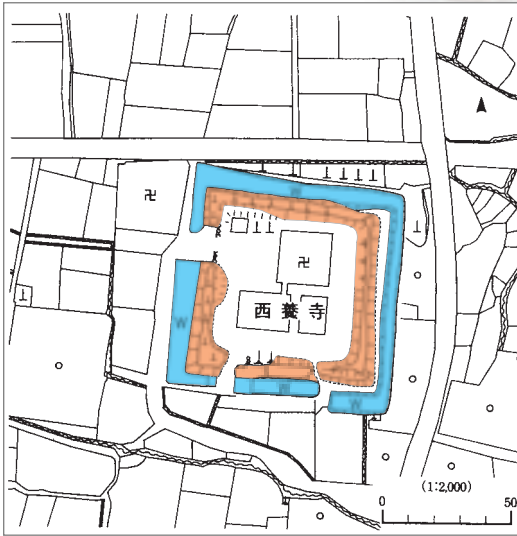
西養寺は松倉城主椎名氏の子孫によって開基。土塁の一部は削り取られているが、周囲には堀が残り、平野部に残る方形居館としては貴重である。虎口は、西側と南東側の2か所で、注目されるのは南東側の堀の食い違いであり土橋を渡って虎口へ入る進入路がカギ形におれている。また、虎口から東側土塁に沿って犬走りが配されている。館主については土肥氏と伝え、戦国期に土肥氏支城群の一角を形成していたことがわかる。上杉謙信の越中侵攻の際、元亀・天正の頃に落城した。



堀(上市町教育委員会提供)



堀(上市町教育委員会提供)



上市町は「中世豪族屋敷跡」として指定している。



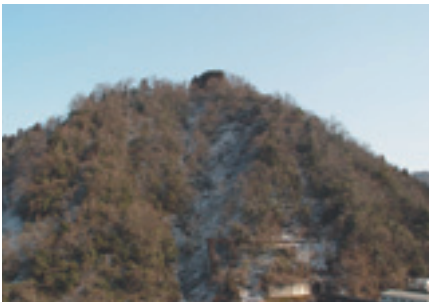
22

稲村山城 (稲村城)

町史跡

- 所在地** 上市町釈泉寺
立地 丘陵頂部、標高348m
遺構 曲輪、堀、櫓台
規模 180m×90m
城主 土肥源七郎、土肥左衛門
時期 戦国

概要 上市川上流の上市川第一ダムの北側にそびえる山上に位置する。山頂の比較的大きい平坦な曲輪を中心に切岸と小規模な堀切を配する。城主は土肥源七郎と伝えている。築城の時期は不明。



(上市町教育委員会提供)



23

せんごくやま
千石山城 (千石山砦)

所在地 上市町千石・伊折
立地 丘陵頂部、標高757m
遺構 曲輪、堀、虎口
規模 400m×130m
城主 土肥氏
時期 戦国
概要 上市川上流の上市第二ダムの東側にそびえる山上にある。近年、遊歩道が尾根の南側から山頂部まで整備された。山頂部に主郭があり南東と北西方向に堀切を設ける。南東には連続した三つの堀切、北西方向の尾根には深さ10～14mもある二重の堀切がある。



主郭



(上市町教育委員会提供)



24

みょうがたにやま
茗荷谷山城 (茗荷谷山砦)

所在地 上市町大岩・浅生・須山
立地 丘陵頂部、標高446m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 790m×340m
城主 土肥氏
時期 戦国
概要 大岩日石寺の東方「城ヶ平山」の山上にある。主郭は最高所にあり、小規模で削平が不十分で自然地形が多く残る。堀切は幅10m以上のものと小規模なものがある。城主は不明である。



25

郷田砦 (郷田升形古城)

所在地	上市町柿沢
立地	丘陵先端 標高107m
遺構	曲輪、土塁、堀、土橋、虎口
規模	100m×50m
城主	土肥氏、佐々成政
時期	戦国
概要	「佐々成政付城ノ跡」にあたる。天正11年(1583)佐々成政が弓庄城を攻めた際に築いた4つの付城のうちの1つである。この砦の土塁の高さは1m前後で、南側に虎口がある。また、北側と西側を中心に多くの段が階段状に存在するが、古くから墓地として使用されされているため、後世の改変も考えられる。当砦とは別に西方の白岩川左岸段丘上にも日中砦(立山町)がある。



(上市町教育委員会提供)



(上市町教育委員会提供)



26

柿沢城 (柿沢砦)

所在地	上市町柿沢
立地	丘陵先端、標高170m
遺構	曲輪、土塁、堀、虎口
規模	370m×170m
城主	土肥美作、桂田善左衛門
時期	戦国
概要	大岩川が平野部へさしかかる地点の右岸山上に位置する。尾根上に郭が階段上に連なる。主郭は南東側最高所にあり、唯一土塁を廻らす。郭数の多いわりには全体に防御施設の中心となる堀切が少ない。土肥美作守の家老桂田善左衛門が城主。背後にそびえる茗荷谷山城が「詰の城」と伝えられていることからすれば柿沢城は弓庄城と茗荷谷山城を結ぶ中継拠点(つなぎの城)であったとみられる。

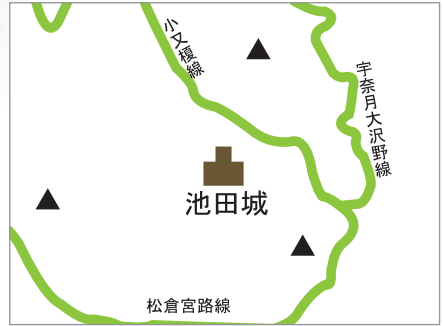
大岩川が平野部へさしかかる地点の右岸山上に位置する。尾根上に郭が階段上に連なる。主郭は南東側最高所にあり、唯一土塁を廻らす。郭数の多いわりには全体に防御施設の中心となる堀切が少ない。土肥美作守の家老桂田善左衛門が城主。背後にそびえる茗荷谷山城が「詰の城」と伝えられていることからすれば柿沢城は弓庄城と茗荷谷山城を結ぶ中継拠点(つなぎの城)であったとみられる。



いけだ
池田城 (池田壘)

町史跡 (H7年)

- 所在地** 立山町池田
立地 丘陵頂部、標高375m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋、櫓台、虎口
規模 320m×190m
城主 寺嶋職定、金森中務
時期 戦国
概要 城山と呼ばれ山頂にある。山頂部にある主郭を中心に比較的高い切岸を持つ郭を階段状に設け、北西側の中腹に居住空間となる大きな郭がある。かつて、この城山の麓には池が多くあったと伝えられ、現在も釜ヶ池が残る。芦峯寺は信濃との交通路の接点の地であり、これを押さえる軍事拠点として城が築かれた。神保氏の有力家臣、寺嶋氏の居城。



(立山町教育委員会提供)



(立山町教育委員会提供)



28

にっちゅう

日中砦 (日中城)

町史跡

所在地 立山町日中**立地** 台地、標高59m**遺構** 土塁、土橋、堀、虎口**規模** 60m×60m**城主** 佐々成政**時期** 戦国

概要 白岩川左岸の段丘上に位置する。東側が崖に面し、他の三方が土塁と空堀によって囲まれた方形単郭形式である。天正10～11年佐々成政が弓庄城を攻めたときに築いた砦とみるのが正しいであろう。

川を挟み東方約500mの台地上には、土肥氏の本拠地とした弓庄城がある。



(立山町教育委員会提供)





29

しんぐうやま 新宮山城 (岩倉古城)

- 所在地** 立山町栃津
立地 独立丘陵、標高234m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋、虎口
規模 140m×80m
城主 村田弥三郎、岩倉薩摩守
時期 戦国
概要 古文書に天正7年(1579)岩倉薩摩が居城していたが、長連龍に攻められ落城した事が記載されている。



主郭



発掘調査の様子



30

ぶっしょうじ 仏生寺城 (仏性寺城)

- 所在地** 舟橋村仏生寺
立地 平地、標高10m
遺構 曲輪、堀、井戸、堀立柱建物
規模 280m×150m
城主 細川曾十郎
時期 戦国
概要 白岩川の支流細川の左岸に位置し、舟橋村役場周辺から富山地方鉄道本線の北側約100mの範囲である。城主は越中五大将の一人である細川曾十郎と伝える。これまでの発掘調査から、城の存立期間は出土遺物などにより15～16世紀前半と考察され、城のつくりは北側に主郭、南側に副郭を配す、南北二つからなる複郭式である。

平成12年舟橋村教育委員会により発掘調査が実施され、堀が確認されている。



西側の堀



東側の堀



31

とやま
富山城 (安住城)
あずみ

所在地 富山市本丸地内
立地 平地、標高10m
遺構 曲輪、土塁、虎口、土橋、櫓台、
石垣・堀、土間遺構、小鍛冶跡、土坑、
整地跡（堀以下発掘）

規模 700m×500m

遺存状況 良好

城主 神保長職・長住、佐々成政、前田利長

時期 戦国～近世

概要 天文12年（1543）神保長職が築城。永禄3年（1560）上杉謙信が攻める。天正6年（1578）上杉謙信没後、同10年（1582）佐々成政の居城。同13年（1585）佐々が豊臣秀吉に降伏、前田利長が慶長2年（1597）から2年間、また同10年（1605）から5年間居城。元和元年（1615）一国一城令により廃城、寛永16年（1639）富山藩の成立後は藩主前田氏の居城。平成14年度の発掘調査で、戦国時代後期の堀跡・鍛冶工房跡、陶磁器類・茶臼などが出土した。



国登録有形文化財 富山市郷土博物館(富山城)



市指定建造物千歳御門



石垣



しらとり
白鳥城 (呉服山陣城)
ごふくやま

所在地 富山市吉作
立地 丘陵頂部、標高146m
遺構 曲輪、堀、土塁、土橋、櫓台、虎口、礎石、井戸
規模 350m×290m
城主 神保長職、神保八郎左衛門、岡島一吉、片山伊賀

時期 戦国
概要 呉羽山丘陵の最高峰、神保長職が上杉謙信の越中攻めに備えるために築城。天正13年(1585)、佐々成政攻めのため豊臣秀吉はこの地に本陣を置く。成政降伏後は前田氏の家臣岡島一吉が居城。発掘調査で礎石の建物、石を敷きつめた遺構が確認された。富山・射水両平野をよく展望することができる。



こいで
小出城 (小井出城)
こいで

所在地 富山市水橋小出
立地 平地、標高4m
遺構 堀、石垣又は護岸石列
城主 唐人兵庫 (武部兵庫正)、榎美庄助五郎、久世但馬守、佐々喜藤次、同喜左衛門

時期 戦国
概要 初代城主は武部兵庫正、佐々成政の時に落城。新庄城とともに織田方が新川郡の上杉方に対する際の前線基地となった。織田・上杉両軍の境界線上に位置する。



34

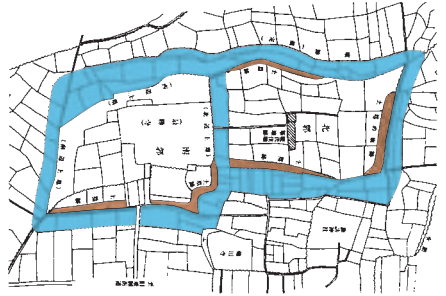
にがわ

蜷川館 (最勝寺城)

さいしょうじ

所在地 富山市蜷川
立地 平地、標高24m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 250m×110m
城主 蜷川氏
時期 南北朝、室町、
 戦国

概要 古刹最勝寺に位置、文化年間（1804～18）富山藩が製作した「蜷川館跡之図」がある。本堂を初めとする建物の他境内を取り巻く土塁やその外側に存在する堀まで描かれる。



発掘調査での堀(富山市教育委員会提供)



35

がんかいじ

願海寺城

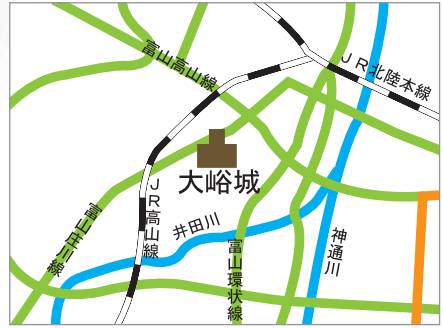
所在地 富山市願海寺
立地 平地、標高 3 m
現状 水田、宅地
遺構 曲輪、堀、土橋
城主 寺崎民部左衛門・喜六郎（父子）
時期 戦国
概要 加茂神社を中心とした一帯、城主の寺崎民部左衛門は上杉謙信に属していたが、謙信没後、織田方についた。しかし、同 9 年再び上杉方に属したため織田方に攻められて落城。



36

おおがけ
大峪城

所在地 富山市五福
立地 平地、標高17m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋
城主 片山伊賀守、前田家の旗本
時期 戦国
概要 旧井田川左岸、市立五福小学校一帯が城跡。天正13年（1585）豊臣秀吉は白鳥城を佐々成政攻めの本陣とし、本城は安田城と共に白鳥城の支城とした。平成元年（1989）本丸の東側で試掘調査が行われ、堀跡と土橋の存在が確認された。現在本丸跡の高台に校舎が建つ。



遠景(富山市教育委員会提供)



37

さるくら
猿倉城 (船倉城)

所在地 富山市舟倉猿倉山
立地 丘陵頂部、標高345m
遺構 曲輪
規模 130m×120m
城主 塩屋筑前守秋貞、斎藤信利、寺嶋三八郎
時期 戦国
概要 神通川右岸の猿倉山頂にある。飛騨街道を押さえる交通の要衝である。元亀2年（1571）飛騨の塩屋筑前守秋貞が越中へ出兵に際し、梶尾城と本城を築城したとされている。





とが お
柵尾城 (戸川城)

所在地 富山市舟倉
立地 丘陵頂部、標高280m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋、虎口
規模 450m×300m
城主 塩屋筑前守秋貞、井上肥後、佐々与左衛門
時期 戦国
概要 舟倉台地の山上にある。元亀2年（1571）飛騨の武将塩屋筑前守秋貞が越中へ出兵に際し、猿倉城と築城。



空堀



なかちやま
中地山城 (中地山館)

市史跡



空堀

所在地 富山市中地山
立地 台地、標高370m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台
規模 250m×200m
城主 江馬輝盛、河上中務
時期 戦国
概要 北を常願寺川、西を小口川、東を和田川によって囲まれた台地上にある。天正元年（1573）飛騨の武将江馬輝盛が越中での活動拠点として築城。織田方が越中へ進出した時に落城。



おみ
小見城 (論田山城)
ろんでんやま

所在地 富山市小見論田山
立地 丘陵先端、標高510m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口
規模 330m×110m
城主 河上中務か（江馬氏の重臣）
時期 戦国
概要 論田山の山上に築城。山上には郭が東西に連なり、主体部は土塁により三つの区画に仕切られる。中地山城との位置関係から江馬氏の重臣河上中務の出城または詰の城として築いたものと推測される。



かしのき
榎ノ木城 (村田城)

所在地 富山市胡桃ヶ原
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台
規模 320m×200m
城主 三木良頼、村田与十郎（上杉氏）
概要 山間地にもかかわらず、雛壇状に設けられた各曲輪の面積は広く、居住性が高い。曲輪配置や虎口・通路などがある。飛驒との中継地点として上杉氏が築いた城の形態を残している。



堀



42

ゆのはな
湯端城

- 所在地** 富山市岡田
立地 丘陵先端、標高171m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、櫓台
規模 80m×60m
城主 畑九郎
時期 戦国
概要 常願寺川左岸の段丘上に位置する。城は方形単郭形式、川に面する東側を除く三面に土塁が廻らされ、外側に空堀がある。眼下に通る街道を監視するために築かれたものと考えられる。



43

ひ お
日尾城

- 所在地** 富山市日尾
立地 丘陵先端、標高230m
現状 山林
遺構 曲輪、土塁、堀、櫓台
規模 250m×60m
城主 江馬輝盛、河上中務
時期 戦国
概要 檜ノ木城と津毛城のほぼ中間にある。南西から北東に向けて伸びる尾根上に曲輪を連ねる。南端にある曲輪は城内の最高所にあたる。



堀

じょうのう
城生城 (城尾城)
じょうのお

市史跡



- 所在地** 富山市八尾町城生
- 立地** 独立丘陵、標高130m
- 遺構** 曲輪、土塁、堀、土橋、虎口、石列、櫓台
- 規模** 750m×200m
- 城主** 越中次郎盛次、斎藤氏、
 佐々与左衛門（佐々氏家臣）、
 青山佐渡守（前田氏家臣）、
 篠島織部（同前）

時期 南北朝～近世初

概要 神通川左岸の独立丘陵上に築城。越中南部の飛騨口に位置し、古くより越中・飛騨両国を結ぶ交通路の要衝であった。斎藤氏は天文12年（1543）に神保氏張に攻められ2年にわたり籠城。斎藤氏は天正の初め上杉家に属したが、謙信死後と織田方に属し、越中進出に協力。天正11年（1583）佐々成政・神保氏張に攻められ落城。佐々成政が豊臣秀吉に降伏した後は、前田氏の部将が城を守った。南側の一部が土砂採取により破壊されているが、それ以外の遺存状況は、極めて良い。

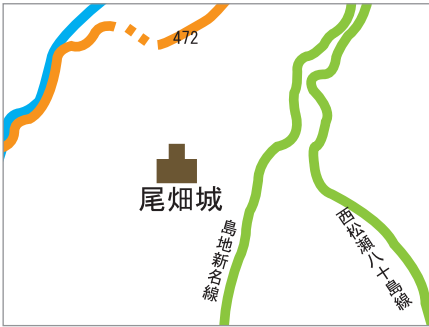




石積



空堀



45

おばたけ

尾畑城

市史跡

所在地 富山市八尾町尾畑

立地 丘陵頂部、標高592m

遺構 曲輪、土塁、堀、櫓台

規模 100m×75m

時期 戦国

概要 大長谷川東側、二ツ屋街道を見下ろす通称「上の山」の山頂にある。遺構は四方に伸びる各尾根につくられている大規模な堀切を配しているが曲輪は小さい。





いだしゅめ

井田主馬ヶ城(主馬之城)

市史跡

- 所在地** 富山市八尾町井田
- 立地** 丘陵頂部、標高175m
- 遺構** 曲輪、土塁、堀、虎口、櫓台
- 規模** 200m×100m
- 城主** 斎藤主馬
- 概要** 井田前山に位置する。遺構はほぼ南北



に延びる尾根状の地形を利用し、小規模ながら曲輪を設ける。主郭は北側の平坦面で、一段下に北から東、南の三方を廻る空堀と帯曲輪が設けられる。しかし東西の両斜面には一段低く帯曲輪を設け、南端部には小さな堀切を設ける。構えから見て北方の平野部に向けて築かれる。斎藤氏の居住した麓の井田館の詰城と推測されている。



井田館

- 所在地** 富山市八尾町井田
- 立地** 平地、標高63m



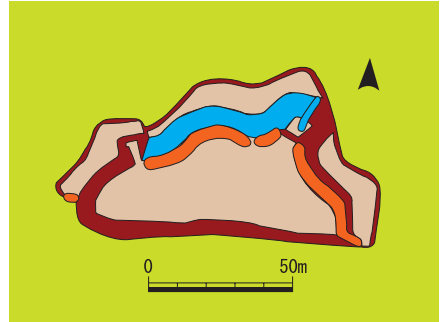


47

たかみね

高嶺城

- 所在地** 富山市八尾町高峯
- 立地** 丘陵頂部、標高264m
- 現状** 山林
- 遺構** 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、槽台
- 規模** 120m×70m
- 城主** 安部宗任、丹波市右衛門、神保氏部将
- 時期** 戦国
- 概要** 北西約900mには仁部川の谷をはさみ高尾城がある。



縄張模式図

ちよつと
コラム

お城へ行くときの注意

- 山城に行くときは、動きやすく、安全な服装で行きましょう。山には倒木や伸びた木の枝が所々にあります。
- 山城があるところは、クマの生活の場でもあります。クマよけ対策をしましょう。

遺物の名前

- 中世土師器って？
中世土師器とは、素焼きの丸いかわらけのことです。(p59の写真中央を見てね。)
- ^{すず}珠洲(焼)って？
中世に能登(珠洲市)で生産していた素焼きの焼物です。多くは甕・壺や播鉢です。

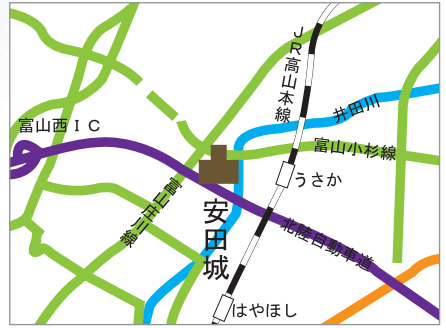


48

やすだ
安田城 (安田墨)

国史跡

- 所在地** 富山市婦中町安田
立地 平地、標高12m
遺構 曲輪、堀、土塁、土橋、虎口
規模 250m×150m
城主 岡島一吉、平野三郎左衛門
時期 戦国
概要 呉羽丘陵の東南、井田川左岸に位置する。天正13年豊臣秀吉が佐々成政を討伐するために白鳥城に陣を構えた際に、支城として築城。前田氏家臣岡島一吉が居城。発掘調査によって本丸・二の丸・右曲輪・堀・土塁が確認された。



ガイダンス施設もあり城について学べる。



安田城跡資料館



発掘調査出土品(富山市教育委員会提供)



発掘調査の様子(富山市教育委員会提供)



柱礎石(富山市教育委員会提供)



49

とみさき
富崎城 (瀧山城) たきやま

- 所在地** 富山市婦中町富崎
立地 丘陵先端、標高92m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台、井戸
規模 270m×170m
城主 水越越前守勝重、神保八郎左衛門、寺嶋牛之助、小島勘助
時期 戦国

概要 山田川の右岸山上にある神保氏の支城。城は空堀や切岸などによって大きく三つの区画に分かれ、主郭には直径2.6mの井戸がある。広大な平坦面があることから、居住性は大きい。防御施設としては二重の空堀や切岸がある。籠城戦向きではなく、日常的な地域支配を目的とした拠点とみられる。

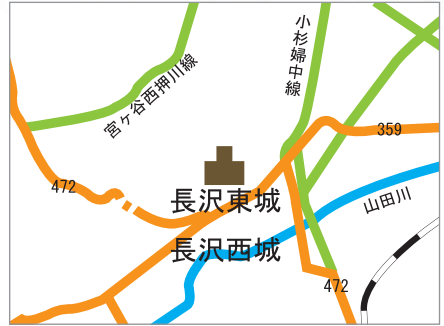


井戸(富山市教育委員会提供)



(富山市教育委員会提供)

- 所在地** 富山市婦中町長沢（東）
 同長沢字城山谷（西）
- 立地** 丘陵先端、標高131m（東）・132m（西）
- 遺構** 曲輪、土塁、堀、虎口（東）
 曲輪、土塁、堀、土橋、虎口、井戸（西）
- 規模** 170m×130m（東）
 270m×130m（西）
- 城主** 普門俊清、桃井直和、寺嶋牛之助
- 時期** 南北朝、戦国
- 概要** 辺呂川左岸の山上に位置する。谷を挟んで並んだ東西二つの山に遺構が確認でき、東側を長沢東城、西側を長沢西城と呼ぶ。東城は平坦面を土塁や切岸で守る。西城には平坦面と土塁、堀切、直径1.5mの石積の井戸がある。この両城は、独立した城というより「一城別郭」であろう。大手口付近の構造を見る限り戦国時代に構築されたと考えられる。



堀



井戸

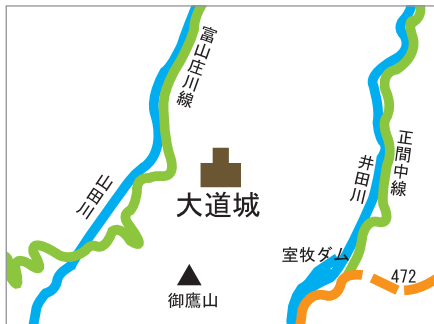


たかやま
高山城 (三瀬山城)

所在地 富山市婦中町高山
立地 丘陵頂部、標高190m
遺構 曲輪、堀、土塁、土橋
規模 500m×200m
城主 神保(寺嶋)牛之助
時期 戦国
概要 山田川右岸の山上にある。北方に富崎城がある。山上を削平し5か所の曲輪と堀切が8条で構成。本城もこの流域を支配した神保氏の一拠点と見なされる。



曲輪



おおどう
大道城 (若狭城)

市史跡

所在地 富山市八尾町大道、山田谷字大林
立地 丘陵頂部、標高640m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台、井戸
規模 200m×120m
城主 寺嶋牛之助、小嶋甚助
時期 戦国

概要 山田川の上流部にあり、本県のなかでも高所に築城された1つ。山上からは日本海・射水平野・呉羽山丘陵などが望める。遺構は南北に4つの郭を連ねた形で構成される。各郭は、ほとんど直線的な塁線で構成され郭のへりには土塁も廻らされている。また各郭の周囲は人工的な切岸で守られ空堀と合わせ堅固な防御となっている。主郭の南北に深く大きい井戸がある。



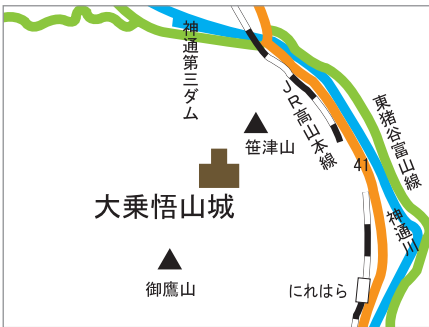
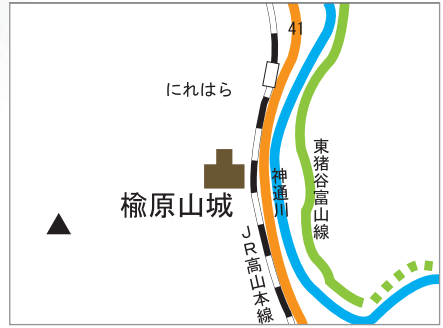


にれはらやま

53 楡原山城

所在地 富山市楡原
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋
規模 250m×100m
城主 畠山氏
時期 戦国
概要 神通川の左岸「城ヶ山」の山上にある。

山上からは猿倉城、楡原館などが望め眼下には神通川沿いの飛騨街道が通る。主郭に当たる山頂部はやや平になっているが人工的な造作は少ない。東と西は急な斜面と深い谷で守られている。楡原山城は楡原館の詰城と推測している。



だいじょうごやま

54 大乗悟山城

所在地 富山市細入字割山、須原
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 80m×50m
城主 畠山義則
時期 戦国
概要 城が富山藩領絵図に記されており、戦国時代は畠山氏の居城と伝える。楡原山城と同様楡原館の「詰の城」としての性格を持つ。西側に残る細長い帯曲輪を「馬場」、南北に残る堀切の跡を「水なかし堀の址」とよんでいる。



55

ほうじょうづ 放生津城(奈呉城)

市史跡

- 所在地** 射水市放生津
立地 平地、標高1m
遺構 曲輪、堀（発掘調査の成果による）
規模 約240m×約230m
城主 名越時有、神保氏、上杉氏、奥村永福、山崎長鏡
時期 鎌倉～戦国

概要 放生津は古くより日本海側有数の港町として栄え、鎌倉時代には越中の守護所が置かれた。室町時代、畠山氏が越中の守護になると神保氏が射水・婦負二郡の守護代として放生津に居城した。明応2年（1493）には京都を脱出した元將軍足利義材を神保長誠が放生津に迎えている。城跡は現在の放生津小学校一帯であり、「二ノ丸」や「鉄砲町」、「城ノ川」などの地名が伝えられている。



56

ひのみや 日宮城(火宮城、橋下条城)

市史跡

- 所在地** 射水市日宮
立地 台地、標高20m
遺構 曲輪、土塁、虎口
規模 360m×180m
城主 神保長職、神保覚広、小島職鎮ほか
時期 戦国
概要 北陸街道に面した低い丘陵の上に築かれ、南側には日宮神社や薬勝寺が存在する。戦国期、神保氏の主要な支城。「日宮新村見取絵図」によれば、「本丸」が薬勝寺の北東に隣接する丘陵、「二の丸」が東側に隣接する小丘陵とされる。主郭付近はほぼ当時の姿を保っている。





57

たかおか

高岡城

県史跡

- 所在地** 高岡市古城
立地 台地、標高25m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、石垣
規模 700m×450m
城主 前田利長
時期 近世初頭
概要 慶長14年（1609）に前田利長が築城した城で、設計は高山右近と伝えられる。利長が入城したのは同年9月のことであり、今年（平成21年）は高岡開町400年を迎える。城は曲輪を二列に連ねる形で構成され、各曲輪を土橋で結び、水堀をめぐるものである。曲輪の墨線は直線で、大手の土橋などには石垣が積まれている。元和元年（1615年）一国一城令により廃城となり建物は除却されたが、曲輪や水堀など築城当時の縄張りが良好に残され、近世初頭の城郭の姿を知る上で貴重。明治維新後は、高岡町民の運動により都市公園となり、現在は「高岡古城公園」として広く県民の憩いの場として親しまれている。





高山右近の銅像



前田利長の銅像



石垣

所在地 高岡市守山
立地 丘陵頂部、標高259m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋
規模 1170m×520m
城主 桃井氏、神保氏、前田利長
時期 南北朝、戦国、近世初頭
概要 小矢部川左岸にそびえる二上山の西の支峰に築かれている。古来、軍事上の拠点として注目され、桃井氏、神保氏、前田氏の支配下に置かれた。城は山頂の主郭を中心に麓の守山側に伸びる尾根筋などに曲輪を連ねる形であり、主郭の西側斜面には石垣の一部が残され、周辺の尾根筋には家臣団屋敷の跡とみられる遺構も数多く存在する。松倉城、増山城と並び、「越中三大山城」と称される。



切岸





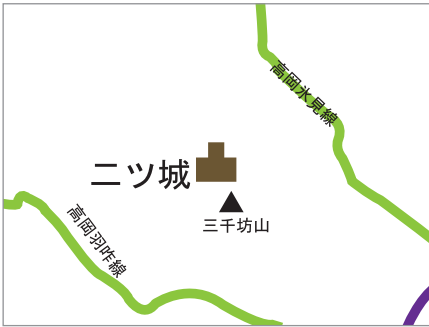
59

ふるこふ
古国府城

所在地 高岡市伏木古府
立地 台地、標高20m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、櫓台
規模 350m×230m
城主 神保氏
時期 戦国
概要 小矢部川の河口左岸の台地上に築かれており、一帯は古代の越中国府が置かれた所として知られる。初め神保氏の出城だったが、天正12年（1584）佐々成政がこの旧国府跡一帯を一向一揆の一大勢力であった勝興寺（国重要文化財）に寄進したことにより、以後、同寺の境内などとして現在に至っている。



(高岡市教育委員会提供)



(高岡市教育委員会提供)



60

ふたつ
ニツ城

所在地 高岡市山川ほか
立地 丘陵頂部、標高264m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 110m×70m
時期 戦国
概要 氷見市と高岡市の境界を成す三千坊山に築かれ、山上には古く天台宗寺院があったと伝えられる。山頂部が狭いにもかかわらず、堀切で三つの区画に分割し、一段下に帯状の平坦面をめぐらす。さらに連続した豎堀を斜面に設けるなど、防御が入念な点の特徴。



61

きぶね
木舟城 (木船城)

県史跡

所在地 高岡市福岡町木舟
立地 平地、標高25m
遺構 曲輪
規模 250m×250m
城主 石黒氏、上杉氏、佐々氏、前田秀継、
前田利秀

時期 南北朝、室町、戦国

概要 小矢部川右岸の砺波平野を横切る中世北陸道沿いに位置する。石黒庄を本拠とする石黒氏が南北朝期以前に当地に進出し拠点を構えたとみられる。戦国期には上杉謙信に属したが、その後、織田方の佐々成政の支城となった。天正13年（1585）、前田秀継が入城したが、同年の大地震により倒壊した。近世の古図によると、三つの曲輪を南北に連ね、周囲に水堀をめぐらした縄張であったことが分かる。発掘調査により、周辺で城下町跡の存在が明らかになっている。





発掘調査(高岡市教育委員会提供)



発掘調査の出土品(高岡市教育委員会提供)



(高岡市教育委員会提供)



62

あかまる 赤丸城

市史跡

所在地 高岡市福岡町舞谷ほか

立地 丘陵頂部、標高174m

遺構 曲輪、土塁、堀、井戸

規模 390m×190m

城主 中山氏、佐々氏

時期 戦国

概要 小矢部川左岸の城ヶ平山に築かれている。規模、防御力共に中世五位庄域で最大の山城で、頂部の主郭の西側には井戸の遺構が見られる。曲輪は南や北東に伸びる尾根を削平して設けられ、要所に堀切、塹堀、畝状空堀群が見られる。



63

かも 鴨城

市史跡

所在地 高岡市福岡町加茂ほか
立地 丘陵頂部、標高195m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 550m×100m
城主 桃井氏、二宮氏
時期 南北朝、戦国
概要 小矢部川左岸の「カモ山」から「モトリ山」かけての山上に築かれている。山上は自然の広い平坦面であるが、周囲が切岸で守られている。南西部には一段高い平坦面があり、ここが主郭とみられる。西側には元取山方向に備えた横堀が掘られ、元取山の頂部は物見台として使われたとみられる。



(高岡市教育委員会提供)



(高岡市教育委員会提供)



64

あさい 浅井城

所在地 高岡市福岡町赤丸
立地 丘陵先端、標高57m
遺構 曲輪、堀
規模 180m×100m
城主 中山氏
時期 室町、戦国
概要 浅井神社南側の丘陵の先端部に築かれ、神社の入口にあたる集落を見下ろす位置にある。縄張は単純で、尾根筋の途中を堀切で遮断し、そこから先端部までを城域としたものである。

市史跡



- 所在地** 氷見市森寺
- 立地** 丘陵頂部、標高166m
- 遺構** 曲輪、土塁、石塁、堀、虎口、櫓台、石垣、井戸、城道
- 規模** 1100m×400m
- 城主** 能登畠山氏、長沢光国、湯山統甚、河田主膳、佐々氏、斎藤信利

時期 戦国

概要 現在は一般に「森寺城」と呼ばれているが、戦国期には「湯山城」の名で史料に登場する。城は八代谷の中ほどで、阿尾川の中流左岸の丘陵上に築かれている。能登国境付近の交通路を押さえる要衝を占めている。喰違い虎口や堅堀、堀切、畝状空堀群などのほか、主郭周辺に設けられた石塁や石垣、櫓台といった遺構が注目され、特に石垣は中世のものでは県内唯一の本格的なもの。広大な城域は氷見市内最大の規模であり、富山県内でも「三大山城」に並ぶ規模である。



石垣



66

あ お
阿尾城 (ひ み 城、あ お 城)

県史跡

所在地 氷見市阿尾

立地 独立丘陵、標高46m

遺構 曲輪、堀

規模 330m×100m

城主 菊池氏、前田氏

時期 戦国、近世初頭

概要 海に向けて突出した丘陵という特異な立地で知られる。上杉謙信に従ったあと、天正8年（1580）に信長から知行安堵の朱印状を得て織田方に属し、佐々氏、前田氏に属した。江戸時代の書上類によると、本丸・二ノ丸・三ノ丸の三つの曲輪があったと伝えられるが、先端部の本丸跡を除き、他は明確ではない。





いいくぼ
飯久保城 (南条城)
なんじょう

所在地 氷見市飯久保
立地 丘陵頂部、標高75m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台
規模 400m×250m
城主 狩野氏
時期 戦国
概要 仏生寺川の中流右岸にそびえる丘陵上に築かれている。城の麓にある飯久保の集落を「城ノ下」、仏生寺川べりを「鍛冶屋町」と呼ぶことから、中世に城下集落が存在したとみられる。主郭は山頂部を削平して南側を削り残し、土塁とし、その東端に櫓台を設けている。北端の大手口は内枳形虎口を備えた馬出曲輪となっており、戦国末の改修が考えられる。



ちくり
千久里城 (千久利城)
ちくり

所在地 氷見市中尾ほか
立地 丘陵頂部、標高137m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 250m×250m
城主 桃井氏、井上氏
時期 南北朝、戦国
概要 氷見市街地西方の竹里山に築かれている。

この山は山頂付近が切り立った、特徴ある景観を示すため、海上の船の目印ともなっている。山頂からは阿尾・中村・木谷・守山などの城跡を望むことができる。大規模な曲輪群や土塁・横堀が存在することなどから、戦国期の改修・使用が考えられる。





69

なかむら
中村城

- 所在地** 氷見市中村
立地 丘陵頂部、標高68m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋
規模 300m×200m
城主 長尾左馬助
時期 戦国
概要 上庄川左岸の丘陵上に築かれている。

越後の長尾左馬助の居城と伝えられる。大規模な堀切と切岸で守られた山上曲輪群をはじめ、畝状空堀群の存在が特徴的である。



(氷見市教育委員会提供)



(氷見市教育委員会提供)



70

きのたに
木谷城

- 所在地** 氷見市稲積
立地 丘陵頂部、標高107m
遺構 曲輪、堀、土橋
規模 140m×120m 完存
城主 桃井氏、吉見氏
時期 南北朝
概要 余川谷と上庄谷の境を成す丘陵の東端付近に築かれている。南北朝期の戦いにしばしば登場する城として注目される。小規模な曲輪とそれをめぐる切岸などが特徴的である。



こうら
小浦城 (池田城)
いけだ

所在地 氷見市小久米
立地 丘陵先端、標高90m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口
規模 130m×100m
城主 小浦氏
時期 南北朝、戦国
概要 小久米は上庄川中流沿いの集落で、中世以来能登と氷見を結んだ「白ヶ峰越え」の道を押さえる要衝に位置する。地元では「城ヶ峰」と呼ばれ、山上からは上庄川沿いに中村方面を望める。山頂部の主郭を中心に同心円状に帯曲輪をめぐらす縄張りに特徴がある。



(氷見市教育委員会提供)



(氷見市教育委員会提供)



えびせ
海老瀬城

所在地 氷見市余川ほか
立地 丘陵頂部、標高130m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台
規模 100m×75m
城主 菊池氏、前田氏か
時期 戦国
概要 余川谷と八代谷の境を成す丘陵上に築かれ、そばを南北朝期以来の古道である「義仲道」が通っている。曲輪の数が多い割に周囲の土塁が低く、堀も浅く小規模であること、主要な曲輪の面積が小さいこと、虎口付近の土塁には巧妙な折れなど縄張りは織豊期城郭の特徴を示す。全体的なコンパクトさは臨時の陣城であることを物語っている。氷見市内でも例のない異色の城郭である。



73

しらかわ
白河城

所在地 氷見市白川
立地 丘陵先端、標高100m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 170m×90m
城主 井上氏、大隅貞章
時期 南北朝、戦国
概要 城跡のある白川は、海岸の宇波から長坂を経て、石動山に至る道筋の途中にある。白河城はこの道筋を見下ろす丘陵の中腹部に位置し、土塁と堀切を備えた小規模な曲輪を中心に「百間馬場」と呼ばれる広い平坦面をもつ。



(氷見市教育委員会提供)



(氷見市教育委員会提供)



74

まちようざん
摩頂山城

所在地 氷見市小竹
立地 丘陵頂部、標高262m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 570m×470m
城主 桃井氏、吉見氏
時期 戦国
概要 摩頂山は臨濟宗国泰寺の旧地と伝えられ、大師岳と共に二上山塊の北側の一角を占める。東西に長い山頂の東半部を主郭とし、南方に伸びる2本の尾根筋に堀切や曲輪を設けている。山頂西側の細尾根の下で総数389枚の銅銭が出土しており、広範囲にわたる城域と大規模な堀切・堅堀が特徴的。



75

そうりょう
惣領砦

- 所在地** 氷見市惣領
- 立地** 丘陵頂部、標高102m
- 遺構** 曲輪、土塁、堀、土橋
- 規模** 400m×140m
- 城主** 狩野氏
- 時期** 戦国
- 概要** 仏生寺川の中流左岸にそびえる丘陵上に築かれている。東西に長い頂部を削平して3か所の曲輪を連ね、両端と各曲輪の間に堀切を入れている。北側の中腹には長い帯曲輪が設けられている。また、中心部から離れた東方の尾根に2か所の堀切が見られる。



(氷見市教育委員会提供)



76

ほりた
堀田城

- 所在地** 氷見市堀田
- 立地** 丘陵頂部、標高105m
- 遺構** 曲輪、土塁、堀、土橋
- 規模** 330m×300m
- 城主** 堀田氏か
- 時期** 戦国
- 概要** 堀田集落の南方で、谷にはさまれた丘陵の上に築かれている。城は3か所の曲輪から成るが、それぞれの曲輪が切岸や堀切で守られ、独立した形を示している。各曲輪の間は水平な尾根で結ばれているが、その両側は急斜面の要害であり、尾根道が唯一の連絡路となっている。



(氷見市教育委員会提供)



あらかや
荒山砦

所在地 氷見市小滝、石川県中能登町
立地 丘陵頂部、標高486m
現状 山林、公園
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口
規模 250m×230m
城主 菊池入道、温井影隆、三宅長盛
時期 戦国
概要 能登の国境線に位置し、軍事的拠点として使用された。当初は石動山天平寺の山城、戦国期には阿尾城主の菊池氏が守った。織田方の攻撃により落城、その後は前田氏の拠点となる。



やしろにし
八代西城

所在地 氷見市八代
立地 丘陵頂部、標高86m
現状 山林
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 100m×50m
城主 井上氏か
時期 南北朝
概要 八代城と谷をはさんで向かいあい、北方で八代城のある尾根筋と結ばれるので、八代城の西を守った山城と考えられている。



79

こうじろ 神代城

- 所在地** 氷見市神代
立地 丘陵頂部、標高74m
現状 山林
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 150m×120m
城主 狩野氏か
時期 戦国
概要 西の飯久保城、東の堀田城にはさまれた丘陵上に築城された。頂部に設けられた主曲輪を中心に張り出した尾根筋に堀切や切岸で守ったもので、極めて濃密な防御を施している。



(氷見市教育委員会提供)



(氷見市教育委員会提供)



80

いなづみ 稲積城

- 所在地** 氷見市稲積
立地 丘陵頂部、標高99m
現状 山林
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 250m×150m
城主 常門新左衛門尉
時期 南北朝
概要 越中の桃井直常を討伐するため、能登守護吉見氏頼の軍勢が氷見へ侵攻し、三角山城を攻めた。



ますやま

増山城

県史跡

- 所在地** 砺波市増山
- 立地** 丘陵頂部、標高120m
- 遺構** 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台
- 規模** 増山城：1000m×900m
- 城主** 神保長職、上杉氏、佐々氏、中川光重
- 時期** 戦国、近世初頭
- 概要** 和田川右岸の丘陵上に築かれている。西側は和田川、南から東側にかけては深い谷で守られる。松倉城・守山城と並び「越中三大山城」と称される。本格的な築城は、16世紀前半の神保長職期である。上杉謙信が永禄3年（1560）富山城を攻め、長職は増山城に逃れるが、ついには落ち延びていった。天正4年（1576）謙信に攻略され、上杉氏の支城となったが、天正9年（1581）、織田方の手に落ち佐々成政の支城となった。成政降伏後は、前田利家の娘婿中川光重が居城した。廃城は慶長年間（1596～1615）と考えられる。増山は最盛期の成政期に本体の増山城を中心として北側の山続きに屋敷跡、さらに亀山・孫次山などの出城から成る広い城郭群を形成しており、西側の和田川左岸には城下町も存在した。





(砺波市教育委員会提供)



かめやま
亀山城 (和田城か)

- 所在地** 砺波市増山
- 立地** 丘陵頂部、標高133m
- 遺構** 曲輪、土塁、堀
- 規模** 450m×250m
- 城主** 桃井氏、神保氏、上杉氏、佐々氏
- 時期** 南北朝、戦国
- 概要** 南北朝期の二宮円阿軍忠状に登場する「和田城」にあたる。初めは桃井氏の拠点であった。



亀山城(砺波市教育委員会提供)

戦国期に神保氏が修築し、佐々成政期には増山城の北の出城になった。山頂部の主郭を中心に中腹に腰曲輪群、尾根筋に堀切、北側から西側にかけての斜面に堅堀などを配している。



(砺波市教育委員会提供)



まごじやま
孫次山砦

- 所在地** 砺波市増山
- 立地** 丘陵頂部、標高128m
- 遺構** 曲輪、土塁、堀
- 規模** 200m×180m
- 時期** 戦国
- 概要** 和田川右岸の丘陵上に築かれている。

南側には谷を隔てて亀山城があり、増山城郭群の北端の守りを形成する。十分に削平した曲輪は少ないが、東側斜面に残る堅堀群が特徴的である。



だんの
壇城 (庄城、段の城)

市史跡

所在地 砺波市庄川町庄
立地 丘陵先端、標高136m
遺構 曲輪、土塁、豎堀
規模 300m×150m
城主 桃井氏、石黒与三右衛門
時期 南北朝、戦国
概要 庄川右岸の丘陵上に位置する。城跡は水田となった広い平坦面で、地上に遺構を残さないが、昭和58年の試掘調査の際、礎石、柱穴、石敷、石列などが確認されており、台地全体に遺構が分布するとみられる。また、東側の小高い丘陵の頂部にも土塁を備えた曲輪がある。南北朝期の二宮円阿軍忠状によると、貞治元年（1362）と応安2年（1369）に幕府方が桃井方の拠る庄城を攻めている。戦国期には木舟城主石黒左近の弟で、家老を兼ねる石黒与三右衛門が居城したという。



(砺波市教育委員会提供)



やすかわ
安川城 (鬼ヶ城、浅野谷城)

所在地 砺波市塩谷
立地 丘陵頂部、標高192m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 250m×200m
城主 黒田太左衛門尉
時期 戦国
概要 塩谷集落の南の丘陵に築かれている。「越中古城記」に後花園院皇子淳良親王と般若郷の荘官に任じられた黒田太左衛門との記述があり、太左衛門がのちに悪党を従えて当城にたて籠もったという。





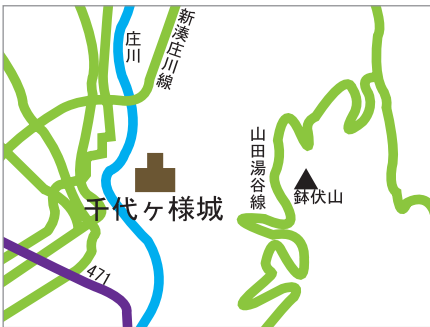
84

かくれお

隠尾城

市史跡

- 所在地** 砺波市庄川町隠尾
立地 台地、標高332m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 80m×80m
城主 南部源左衛門尚吉、渡辺源左衛門
時期 戦国
概要 城主は城跡の隣接地に住む南部氏の先祖にあたる。城は崖に面した要害で、そのへりの小高い台地に曲輪を設けている。南側の崖下には、籠城用の湧水跡が残っている。



切岸



85

ちよがためし 千代ヶ様城

- 所在地** 砺波市庄川町庄
立地 丘陵頂部、標高334m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、櫓台
規模 150m×180m
城主 桃井氏、石黒氏か
時期 南北朝、戦国
概要 庄川右岸の三条山の上にある。南北朝期の得田章房・得江季員軍忠状に応安2年(1369)9月の記述がある。壇城との関係から、戦国期に壇城を拠点とした石黒氏が詰城として築いたとも考えられる。



86

いまいすぎ

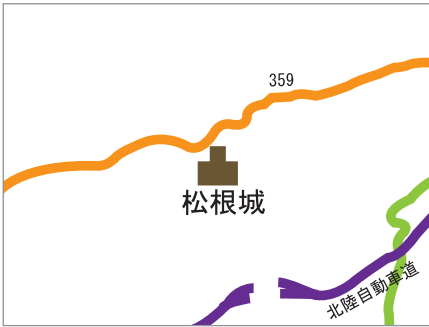
今石動城

所在地 小矢部市上野本桜町入会地ほか
立地 丘陵頂部、標高187m
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋
規模 700m×400m
城主 前田秀継、前田利秀
時期 戦国、近世初頭
概要 砺波平野を一望に見渡す城山に築かれて

ている。ここは加賀との国境に近く、北陸街道にも面した交通の要衝である。天正13年（1585）、前田氏によって築城された。前田利長による廃城後、前田利秀家臣の篠島氏が5代にわたり居住し、町奉行・郡奉行などを歴任。城はほぼ方形の主郭を中心として、四方に伸びる尾根筋に階段状の曲輪を設けた形である。中でも主郭は大規模な切岸をめぐらし、周囲からそびえ立つ特徴的な景観を示している。この時期における前田氏の山城の一典型。



(小矢部市教育委員会提供)



堀



87

まつね

松根城

所在地 小矢部市内山、石川県金沢市
立地 丘陵頂部、標高308m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台
規模 440m×140m
城主 杉山主計
時期 南北朝、戦国
概要 加賀と越中の国境線上に築かれている。

両国を結ぶ「小原道」が城のそばを通っており、古来、このルートを押さえる要衝として存在したとみられる。北側の尾根続きを大規模な堀切で遮断し、そこから南に続く山上を削平して曲輪を設けている。各曲輪は堀切で画され、切岸の下には横堀をめぐらしている。また要所に櫓台を築き、虎口に馬出を設けるなど、この時期の縄張の特徴をよくとどめている。



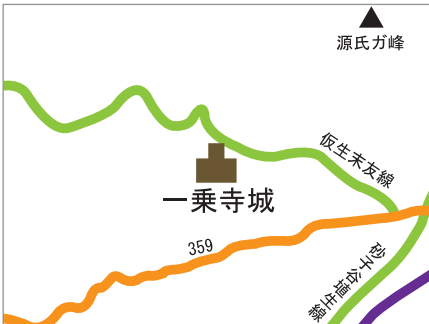
88

げんじがみね
源氏ヶ峰城

所在地 小矢部市道林寺
立地 丘陵頂部、標高245m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台
規模 450m×200m
城主 佐々氏
時期 戦国
概要 源平の合戦で知られる砺波山の支峰に所在し、平氏の軍勢が布陣した猿ヶ馬場とは地獄谷をはさんで相対する城。現在残る遺構は戦国末期のもので、山上部は「く」の字形を示し、西を除く三方を堀切で断ち切り、各曲輪の間を大規模な切岸や堀切で画したものである。また、主要な曲輪に櫓台とみられる高まりが存在する点も特徴的である。



(小矢部市教育委員会提供)



(小矢部市教育委員会提供)



89

いちじょうじ
一乗寺城

市史跡

所在地 小矢部市八伏
立地 丘陵頂部、標高276m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台
規模 300m×300m
城主 桃井氏、丹羽吉左衛門、杉山小助
時期 南北朝、戦国
概要 加賀との国境沿いにある栴山の山上に築かれている。佐々成政と前田利家が戦った天正12年(1584)～13年(1585)には、国境を守る佐々方の支城として大改修され、山頂部の主郭を中心に各曲輪が切岸によって階段状に配置され、曲輪のへりに土塁や櫓台を設け、縦堀で中腹部を刻んでいる。加賀国境に面した西側は特に大規模な切岸と堀切によって尾根続きが遮断されている。佐々成政期の「境目の城」を示す典型である。



どうつばの
道坪野城

所在地 小矢部市道坪野
立地 丘陵頂部、標高166m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口
規模 230m×180m
城主 影野左衛門、松岡新左衛門、三宅新左衛門尉

時期 戦国
概要 道坪野は加賀と砺波を結ぶ道沿いの集落で、城はその国境地帯との関係で築かれたとみられる。丘陵の頂部を削平した方形の主郭とまわりの帯曲輪から成り、東西の尾根続きを堀切で遮断している。主郭の周囲には土塁を設け、北端には虎口が残っている。



(小矢部市教育委員会提供)



あんようじ
安養寺御坊 (安養寺城)

市史跡

所在地 小矢部市末友
立地 台地、標高50m
遺構 土塁
規模 350m×150m
城主 勝興寺
時期 戦国

概要 小矢部市南部の丘陵地帯の裾、洪江川に面する高台に立地する。加賀国境に近い土山（現南砺市）に創建された勝興寺が、高木場（現南砺市）を経て移転した居城。戦国期、勝興寺は瑞泉寺と共に越中一向一揆の二大勢力として大きな地位を占めたが、天正9年、織田方の攻撃により陥落。明治14年（1881）に描かれた絵図によると、二重の堀や土塁によって守られた縄張が示され、加賀と砺波を結ぶ「小原道」が内部を通過している。付近には「寺家町」などの地名も残り、戦国期に寺内町が形成されていたとみられる。



92

はすぬま 蓮沼城

所在地	小矢部市蓮沼
立地	平地
規模	80m×60m
城主	遊佐氏
時期	室町、戦国
概要	渋江川の旧河道左岸に位置している。

西方には加賀との国境であった俱利伽羅峠があり、古来、越中西口の交通の要衝であった。室町から戦国期にかけて守護畠山氏のもとで砺波郡の又守護代を務めた遊佐氏が居城した。城跡は採土や開墾により旧状を失ったが、地籍図から方形の曲輪とそれをめぐる堀、出入口の土橋などがわかる。



(小矢部市教育委員会提供)



93

あんらくじ 安楽寺砦

所在地	小矢部市安楽寺
立地	丘陵頂部、標高172m
遺構	曲輪、土塁、堀、虎口、土橋
規模	80m×70m
城主	高橋与十郎則秋
時期	戦国
概要	加賀との国境に近い交通の要衝で、安楽寺集落西側の丘陵頂部に築かれている。砦跡のある山上付近には古い道跡が何本も見られる。主郭はほぼ方形を示し、周囲に土塁、また北側から西側にかけて堀をめぐらしている。



うわみ
上見城

市史跡

- 所在地** 南砺市上見
立地 丘陵先端、標高205m
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、井戸
規模 130m×70m
城主 笹村太左衛門（太郎左衛門）
時期 戦国
概要 上見集落西側の丘陵上に築城。三方を急斜面で守られ、南側には堀切と土塁がある。城内は土塁によって二つの曲輪に区画され、北側の曲輪に井戸があったという。



土塁(南砺市教育委員会提供)



まるおか
丸岡城 (赤尾城、あかお角淵新右衛門第)
かくぶちしん う えもん

- 所在地** 南砺市西赤尾
立地 丘陵頂部、標高450m
現状 公園、山林
遺構 曲輪
規模 100m×100m
城主 角淵新右衛門
時期 戦国
概要 集落西側の丸岡に主体部を設け、その南麓の台地のへりに出丸状の施設、また東麓の街道沿いに居館状の施設を配する。この内、出丸状の施設は土塁で囲まれた小曲輪であり、「城の腰しろこし」と呼ばれている。城主は地元の土豪角淵



(南砺市教育委員会提供)



やおとめやま
八乙女山砦

市史跡

所在地 南砺市大谷ほか
立地 丘陵頂部、標高752m
現状 山林
遺構 堀
規模 330m×50m
時期 戦国
概要 井波の町並みと瑞泉寺を見下ろす山上にある。本県でも有数の高所に位置する。東側と南側の山続きに堀切を設けるが、この内、南側の堀切は二重である。



堀



(南砺市教育委員会提供)



いなみ
井波城 (砺波城、利波城)
となみ となみ

市史跡

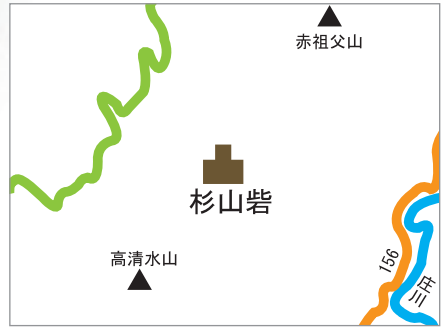
所在地 南砺市井波
立地 丘陵裾部、標高152m
遺構 曲輪、土塁、堀
出土遺物 中世土師器
規模 250m×200m
城主 瑞泉寺、前野小兵衛
時期 戦国
概要 明徳元年（1390）本願寺5代綽如によって瑞泉寺が建立された所である。文明13年（1481）一向一揆が山田川の戦いで石黒氏を破ると、強大化した瑞泉寺はやがて要害を構え、戦国期には勝興寺と並ぶ二大勢力となった。その後、上杉氏に属したが、天正9年（1581）には佐々成政によって攻略された。天正13年まで佐々氏の支城として使われた。現在も大規模な土塁が周囲に残るほか、南側などに堀の跡が認められる。越中における城郭寺院の典型と考えられる。



98

すぎやま
杉山砦

- 所在地** 南砺市杉山
立地 山地、標高1,110m
現状 山林
遺構 曲輪、堀、土橋
規模 25m×5m
城主 不明
時期 戦国
概要 旧城端町と旧利賀村境で通称「道宗道」と呼ばれる山岳道路脇にある。山頂部に主郭があり、尾根続きの北側と南側に堀切がある。五箇山の一揆勢力と佐々勢力との対峙関係を示唆する砦と考えられる。本県で最高所に位置する城館である。



(高岡徹氏提供)



(南砺市教育委員会提供)



99

いのくち
井口城 (池尻城、蛇喰城)
いけじり じゃぼみ

市史跡

- 所在地** 南砺市池尻
立地 平地、標高110m
遺構 曲輪、堀、建物、井戸
規模 140m×120m
城主 井口氏ほか
時期 南北朝、戦国
概要 赤祖父川左岸に築かれ、現在は曲輪の一部が墓地として残る。発掘調査で、方形の主郭とその東側に付随する馬出状の小郭を確認した。南北朝期には桃井直常に属した井口氏の拠点となり、戦国末期には一向一揆方の拠点であったが、天正9年(1581)には佐々成政の攻撃を受け、陥落した。



100

じけあらやしき 寺家新屋敷館（田中氏第）

市史跡

- 所在地** 南砺市寺家新屋敷
立地 平地、標高60m
遺構 土塁、堀、曲輪、
 虎口（発掘調査の成果による）
規模 85m×63m
城主 田中権左衛門貞行、田中太郎兵衛
時期 南北朝 戦国
概要 神明社のそばに土塁の一部を残す。発掘調査で、周囲を土塁と堀で囲み東西に虎口をもつ方形単郭の居館であったことがわかった。南北朝期の桃井直常の家臣田中権左衛門貞行が居住。戦国期に改修されたとみられる。



(南砺市教育委員会提供)



101

のじり 野尻城

市史跡

- 所在地** 南砺市野尻
立地 平地、標高50m
遺構 寺院境内地、水田、畑地 宅地
規模 60m×60m
城主 野尻氏、波多野氏か
時期 南北朝
概要 旅川右岸に位置し、南の柴田屋館跡とは約600mを隔てる。城跡は徳仁寺境内とその周辺にあたる。南北朝期の桃井方に属した野尻氏などの拠点とみられる。





どやま おみね
土山御坊・御峰城

市史跡

所在地 南砺市土山
立地 丘陵頂部、標高261m
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 350m×250m
城主 佐々氏
時期 戦国
概要 加賀との国境に近い台地上にある。勝興寺の前身である土山御坊が置かれた。勝興寺が高木場に移転後、佐々成政期（天正12～13年）では、国境を守るための支城となる。頂部に削平した二段の曲輪とその下に帯曲輪などを備えている。



御峰城



土山御坊



高木場御坊(南砺市教育委員会提供)



たかきば
高木場御坊

所在地 南砺市高窪
立地 丘陵裾部、標高102m
遺構 水田、宅地、公共施設用地
規模 150m×150m
城主 勝興寺
時期 戦国
概要 勝興寺が北へ移転した所がこの高木場御坊である。永正16年（1519）に炎上したため、下流の安養寺村（現小矢部市）に移る。「ジョジャダ（田）」や「ドウニシ」、「カンツキド（鐘撞堂）」などの地名が残っている。



103

ふくみつ
福満城 (福光城)
ふくみつ

市史跡

所在地 南砺市荒町
立地 平地、標高90m
現状 公園、宅地
城主 石黒右近光義
時期 鎌倉～戦国
概要 旧福光町の中心部、源平争乱期に源義仲方に加わった石黒太郎光弘の本拠地。文明13年(1481)の一向一揆との戦いの際、石黒右近光義が居城した。しかし、石黒氏は滅び、廃城。現在、城跡の一部が栖霞園として残っている。



(南砺市教育委員会提供)



104

やすい
安居城

所在地 南砺市安居
立地 丘陵先端、標高123m
現状 山林
遺構 曲輪、土塁、堀
規模 140m×100m
城主 常門新左衛門尉
時期 戦国
概要 小矢部川左岸の丘陵先端部で、福光と石動を結ぶ街道を押さえる位置にある。山頂部に主曲輪があり、その下に帯曲輪をめぐらす。一部には小規模な堀もある。



さいしやうじ

西勝寺城

- 所在地** 南砺市西勝寺
立地 丘陵先端、標高163m
現状 山林
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋、櫓台
規模 150m×75m
城主 石黒太郎光秀
時期 戦国
概要 桑山から東に張り出した尾根筋の先端

にある。遺構は尾根筋を堀切で断ち、3箇所の曲輪を連ねる。当時、この地域を治め文明13年（1481）の一向一揆で滅びた、石黒氏の宗家、石黒太郎光秀の居城と伝えられる。戦国後期の形態を留める。



堀



くわやま

桑山城

- 所在地** 南砺市川西
立地 丘陵山頂、標高292m
現状 山林
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口、土橋、櫓台
規模 100m×100m
城主 坊坂四郎左衛門
時期 戦国
概要 桑山の山頂部、火宮社の北側にある。主郭の周囲を切岸、その下に帯曲輪をめぐる。また、一部に張り出した部分もある。戦国後期の形態を留める。



ひろせ
広瀬城

所在地 南砺市館
立地 丘陵頂部、標高353m
現状 山林
遺構 曲輪、土塁、堀、虎口
規模 270m×150m
城主 加藤右衛門左
時期 戦国
概要 加賀国境にある丘陵頂部にある。堀切、
 塹堀、畝状空堀などで守られた曲輪がある。当初
 は地元を支配する土豪の詰城として築城されたが、
 佐々期では、医王山越えを監視する境目の城の役
 割を果たしたと考えられる。



さいかわ
才川城

所在地 南砺市才川七
立地 丘陵先端、標高160m
現状 山林
遺構 曲輪、土塁、堀、土橋
規模 350m×80m
城主 近岡河内守
時期 戦国
概要 小矢部川左岸の丘陵先端部にある。山
 頂部にある平坦な面を3条の堀切で区画する。地
 元を支配する土豪の詰城として築城されたが、佐々
 期には、陣城としての役割を果たした可能性がある。

『とやまのお城』百選一覧

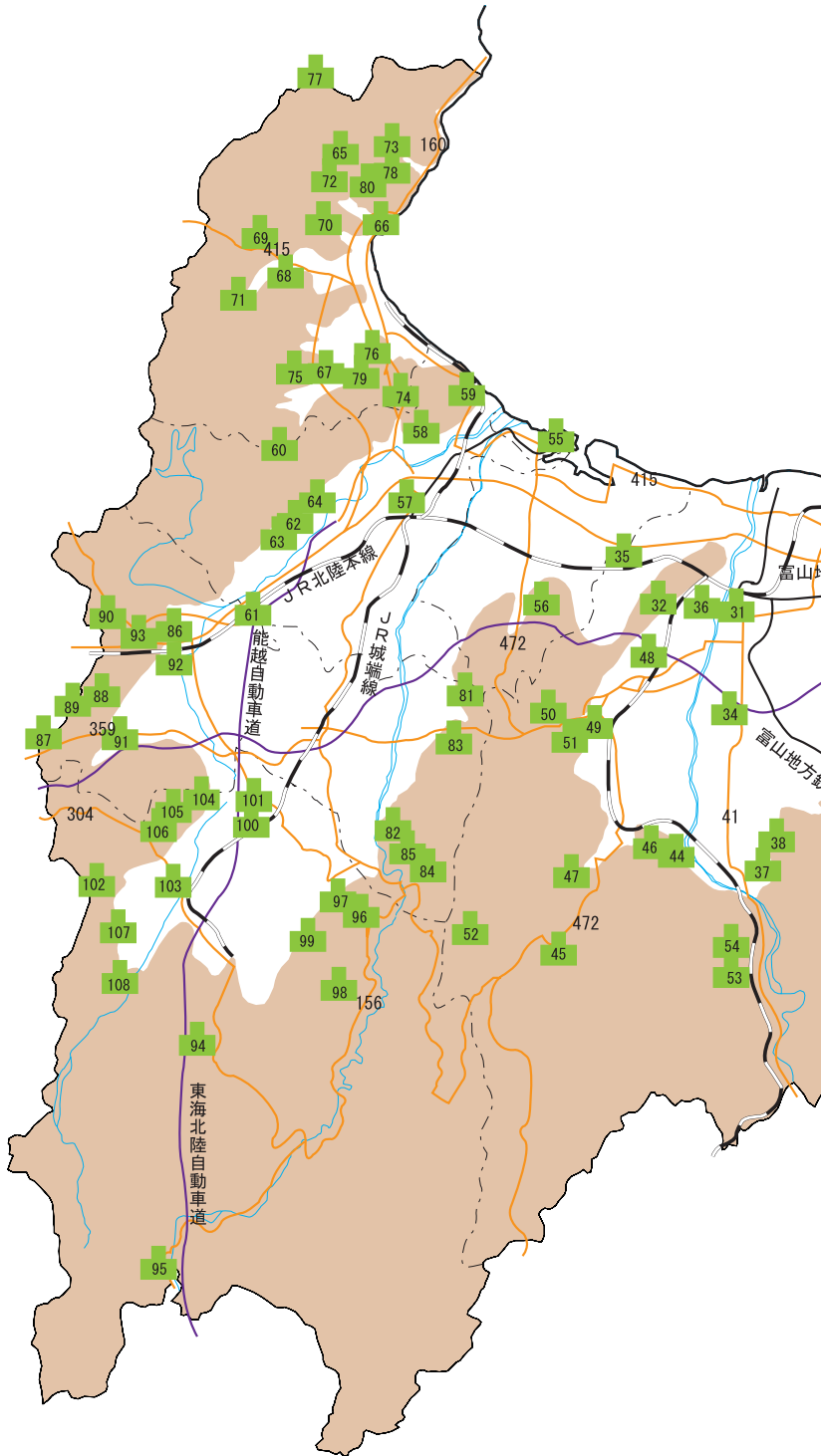
No.	所在地	名称	種別	文化財指定	掲載ページ
1	朝日町宮崎字城山、元屋敷字城山	宮崎城	山城	県指定史跡	10
2	朝日町横尾、笹川	横尾城	山城		11
3	朝日町元屋敷字平、城ノ腰	元屋敷城	山城		11
4	入善町舟見字狐平	舟見城	山城		12
5	黒部市若栗字中村	若栗城	平城	市指定史跡	12
6	黒部市宇奈月町松ヶ平	明日山城	山城		13
7	黒部市嘉例沢、宇奈月町内山	鋦ヶ岳城	山城		13
8	魚津市鹿熊字城山	松倉城	山城	県指定史跡	14
9	魚津市本町	魚津城	平城	市指定史跡	15
10	魚津市升方字城山	升方城	山城	市指定史跡	17
11	魚津市小川寺字天神山	天神山城	山城	市指定史跡	18
12	魚津市北山	北山城	山城	市指定史跡	20
13	魚津市鹿熊字水尾	水尾城	山城	市指定史跡	20
14	魚津市升方字石の門	石の門砦	山城	市指定史跡	21
15	魚津市小菅沼	小菅沼武家屋敷	居館	市指定史跡	22
16	魚津市坪野字西願寺山他	坪野城	山城	市指定史跡	22
17	魚津市大熊	赤坂砦	山城		23
18	滑川市上梅沢	上梅沢館	居館		23
19	滑川市蓑輪、上市町護摩堂	蓑輪城(護摩堂城)	山城		24
20	上市町館西門場他	弓庄城	山城	町指定史跡	25
21	上市町郷柿沢(西養寺)	郷柿沢館	居館	町指定史跡	26
22	上市町稲村、釈泉寺	稲村山城	山城	町指定史跡	27
23	上市町千石、折戸、蓬沢	千石山城	山城		28
24	上市町大岩、麻生、須山	茗荷谷山城	山城		28
25	上市町柿沢郷田	郷田砦	山城		29
26	上市町柿沢	柿沢城	山城		29
27	立山町池田	池田城	山城	町指定史跡	30
28	立山町日中字墓ノ段	日中城	山城	町指定史跡	31
29	立山町天林、芦畷寺	新宮山城	山城		32

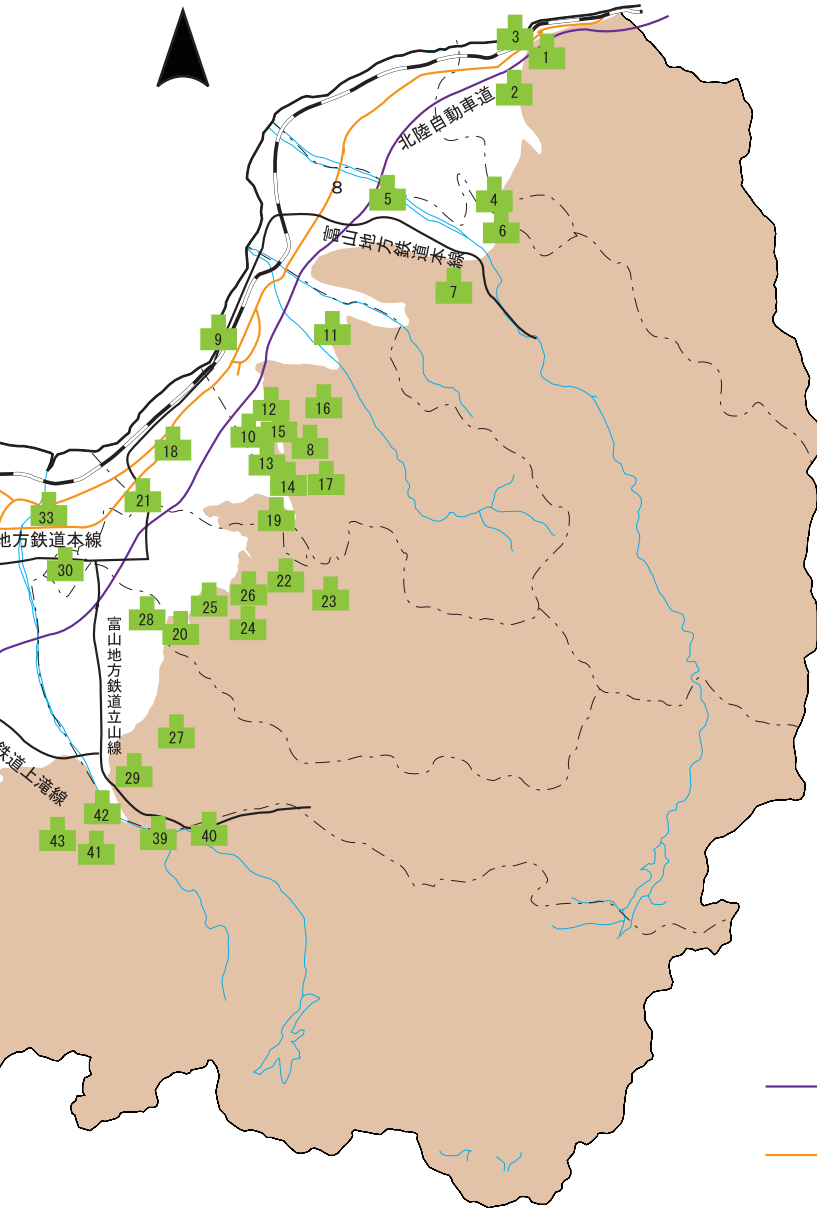
No.	所在地	名称	種別	文化財指定	掲載ページ
30	舟橋村仏生寺字館中、竹内	仏性寺城	平城		33
31	富山市本丸	富山城	平城		34
32	富山市城山、金屋字笹山割、寺町城乗他	白鳥城	山城		36
33	富山市水橋小出	小出城	平城		36
34	富山市蝮川、黒崎字種田割	蝮川館	居館		37
35	富山市願海寺、野町、北二ツ屋他	願海寺城	平城		37
36	富山市五福字城、宇津ノ津、大工町他	大峪城	平城		38
37	富山市舟倉猿倉山	猿倉城	山城		38
38	富山市舟倉	梅尾城	山城		39
39	富山市中地山	中地山城	山城	市指定史跡	39
40	富山市小見輪田山	小見城	山城		40
41	富山市胡桃ヶ原	檜ノ木城	山城		40
42	富山市岡田字中野割、新町	湯端城	山城		41
43	富山市日尾	日尾城	山城		41
44	富山市八尾町城生	城生城	山城	市指定史跡	42
45	富山市八尾町尾畑、倉ヶ谷、小畑	尾畑城	山城	市指定史跡	43
46	富山市八尾町井田	井田主馬ヶ城	山城	市指定史跡	44
	富山市八尾町井田	井田館	山城		44
47	富山市八尾町高峰	高嶺城	山城		45
48	富山市婦中町安田字殿町、外川原他	安田城	平城	国指定史跡	46
49	富山市婦中町富崎	富崎城	山城		48
50	富山市婦中町長沢	長沢東城	山城		49
	富山市婦中町長沢字城山谷	長沢西城	山城		49
51	富山市婦中町高山向山、八尾町三田他	高山城	山城		50
52	富山市八尾町大道字山城、山田谷	大道城	山城	市指定史跡	50
53	富山市楡原	楡原山城	山城		52
54	富山市細入字割山	大乘悟山城	山城		52
55	射水市二の丸字瓢箪堀、江柱、二の丸割他	放生津城	平城	市指定史跡	53
56	射水市下条字日ノ宮、太閤山	日の宮城	山城	市指定史跡	53

No.	所在地	名称	種別	文化財指定	掲載ページ
57	高岡市古城	高岡城	平城	県指定史跡	54
58	高岡市守山	守山城	山城		56
59	高岡市伏木古府	古国府城	平城		57
60	高岡市山川、氷見市仏生寺字脇ノ谷内他	二ツ城	山城		57
61	高岡市福岡町木舟字西堀	木舟城	平城	県指定史跡	58
62	高岡市福岡町馬場、舞谷	赤丸城	山城	市指定史跡	59
63	高岡市福岡町加茂、鳥倉	鴨城	山城	市指定史跡	60
64	高岡市福岡町赤丸字古屋	浅井城	山城		60
65	氷見市森寺城山	森寺城	山城	市指定史跡	61
66	氷見市阿尾字城山	阿尾城	山城	県指定史跡	62
67	氷見市飯久保字向山	飯久保城	山城		63
68	氷見市泉、上田、中尾字萱戸	千久里城	山城		63
69	氷見市中村字粟屋山、柿谷	中村城	山城		64
70	氷見市稲積字木谷	木谷城	山城		64
71	氷見市小久米字池田	小浦城	山城		65
72	氷見市余川字田地、森寺字海老瀬	海老瀬城	山城		65
73	氷見市白川字出崎出	白河城	山城		66
74	氷見市小竹	摩頂山城	山城		66
75	氷見市惣領、矢田部	惣領砦	山城		67
76	氷見市堀田、蒲田	堀田城	山城		67
77	氷見市小滝字奥山割、石川県中能都町	荒山砦	山城		68
78	氷見市北八代城ヶ峰	八代西城	山城		68
79	氷見市神代ノ山	神代城	山城		69
80	氷見市稲積城が峯	稲積城	山城		69
81	砺波市増山	増山城	山城	県指定史跡	70
	砺波市増山字高津保理山他	亀山城	山城		71
	砺波市増山字孫次山	孫次山砦	山城		71
82	砺波市庄川町庄字上垣	壇城	山城	市指定史跡	72
83	砺波市塩谷	安川城	山城		72

No.	所在地	名称	種別	文化財指定	掲載ページ
84	砺波市庄川町隠尾	隠尾城	山城	市指定史跡	73
85	砺波市庄川町庄字上垣	千代ヶ様城	山城		73
86	小矢部市上野本様町入会地字白馬山他	今石動城	山城		74
87	小矢部市内山、石川県金沢市	松根城	山城		74
88	小矢部市道林寺字源氏ヶ峰、松永	源氏ヶ峰城	山城		75
89	小矢部市八伏、八講田、五郎丸	一乗寺城	山城	市指定史跡	75
90	小矢部市道坪野	道坪野城	山城		76
91	小矢部市末友	安養寺御坊	平城	市指定史跡	76
92	小矢部市蓮沼字桜井田	蓮沼城	平城		77
93	小矢部市安楽寺	安楽寺砦	山城		77
94	南砺市上見字瀬戸山	上見城	山城	市指定史跡	78
95	南砺市西赤尾	丸岡城	山城		78
96	南砺市大谷字大平、利賀村下原	八乙女山砦	山城	市指定史跡	79
97	南砺市井波字古城	井波城	平城	市指定史跡	79
98	南砺市杉山	杉山砦	山城		80
99	南砺市池尻字勘定島	井口城	平城	市指定史跡	80
100	南砺市寺家新屋敷	寺家新屋敷館	居館	市指定史跡	81
101	南砺市野尻	野尻城	平城	市指定史跡	81
102	南砺市土山	土山御坊	山城	市指定史跡	82
	南砺市土山	御峰城	山城		82
	南砺市高窪	高木場御坊	山城		82
103	南砺市荒町	福満城	平城	市指定史跡	83
104	南砺市安居	安居城	山城		83
105	南砺市西勝寺	西勝寺城	山城		84
106	南砺市川西	桑山城	山城		84
107	南砺市館	広瀬城	山城		85
108	南砺市才川七	才川城	山城		85

「お城」のまち
「百選マップ」





-  高速道路
-  国道
-  J R 線
-  鉄道
-  お城

平成20年度

「とやまのお城百選」選定委員会委員

往歳 久雄

小島 俊彰

陶 智子

西井 龍儀

山本和代子（五十音順・敬称略）

編集・発行 富山県教育委員会 生涯学習・文化財室

富山市新総曲輪 1 - 7

電話 076-444-3456

<http://www.pref.toyama.jp/>

発行年月日 平成21年 3月(初 版)

平成21年 7月(第二版)

印 刷 (株)タニグチ印刷